肌色の青春

▪ chapter①

①

寝取られ注意



高井唯人


寝取られ
注意
無理するな!!

この物語はＮＴＲ要素を
多く含んでおります
苦手な方はご注意下さい。

肌色の青春

chapter1




N県H島
海に浮かぶ小さな島だが
日に二回
本州への定期船が出ているため
現代社会から完全に取り残された
孤島というわけでもない


明日から
夏休みです
お家の人の言う事を
よく守って
危ない所へ行ったり
しないように
では今学期最後の
号令ですー


定期船のおかげで
通販も利用でき
春日井(かすがい)ソラ


多少の不便はあれど
島の住人は
それなりに
暮らしている
宇佐美(うさみ)茜(あかね)


細川(ほそかわ)藍(あい)

だがそれでも

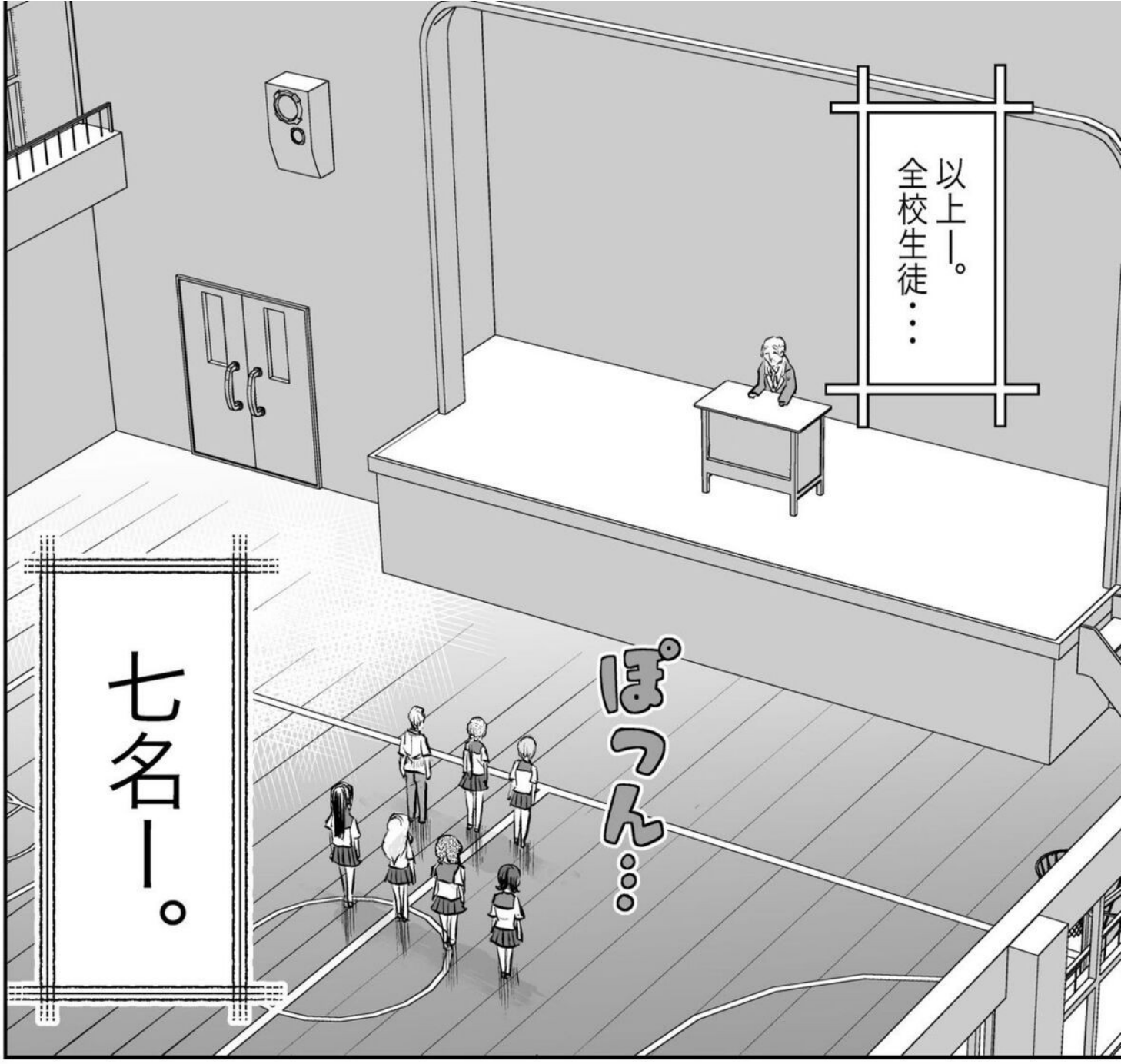
小林翠（こばやしあきら）

堀井萌黄（ほりいもえぎ）

小さな島が抱える
過疎化という問題を
この島も例外なく
抱えていた

藤井紫苑（ふじいしおん）

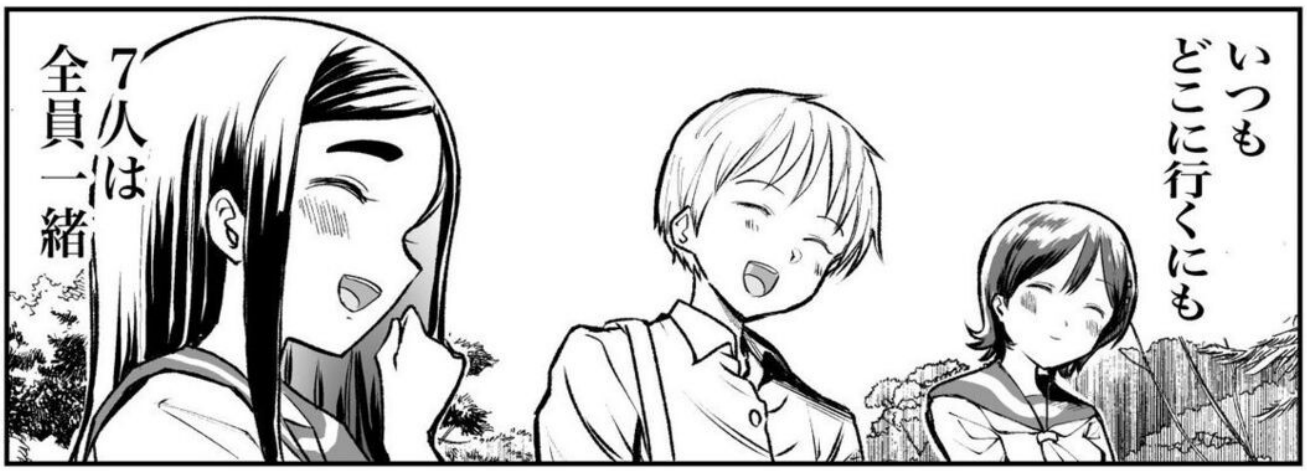
桑田橙（くわたゆず）

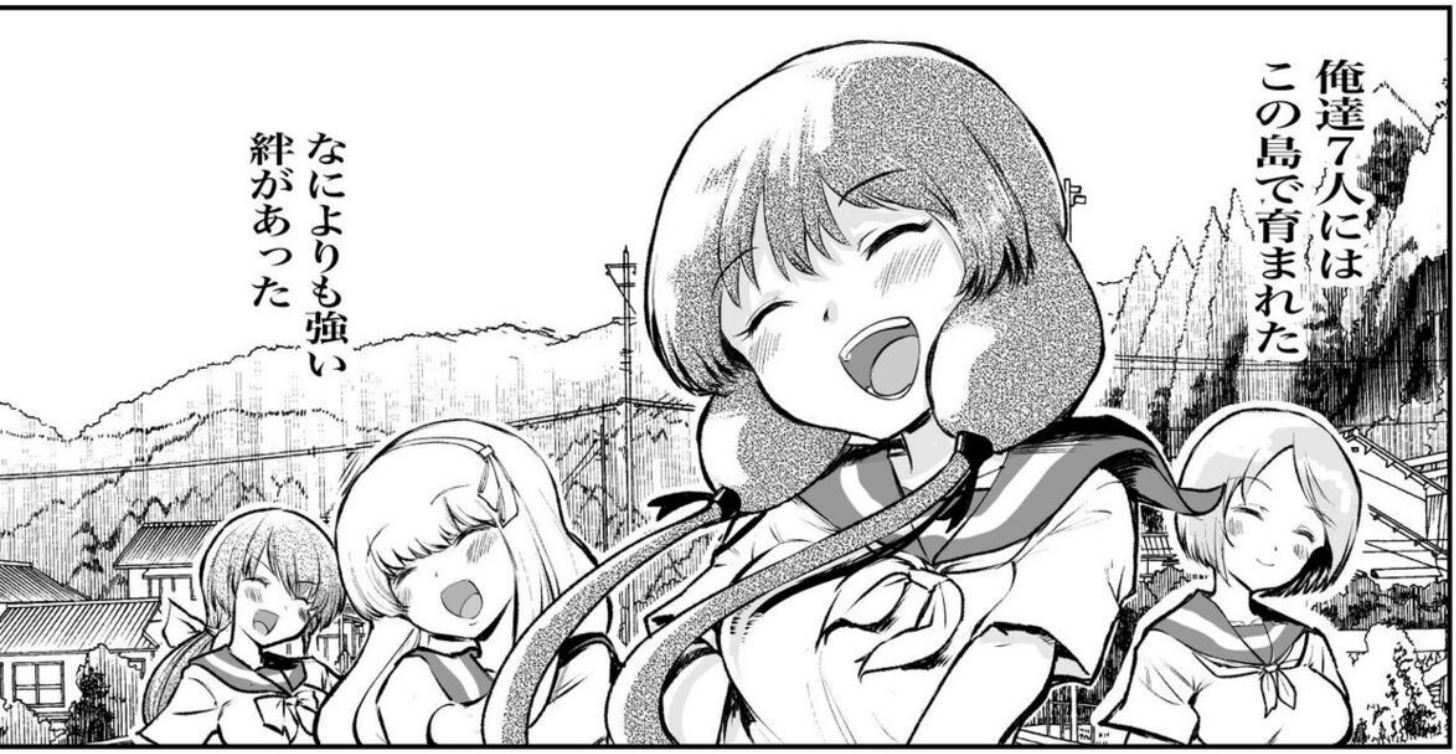

以上ー。
全校生徒・・・
ぽつん…
七名ー。


この島には
今や子供は7人しか
いない
『お家の人の
言う事を守って～』
だって～
校長先生ったら
いつまでも
私達が小さい子供な
気でいるんだから

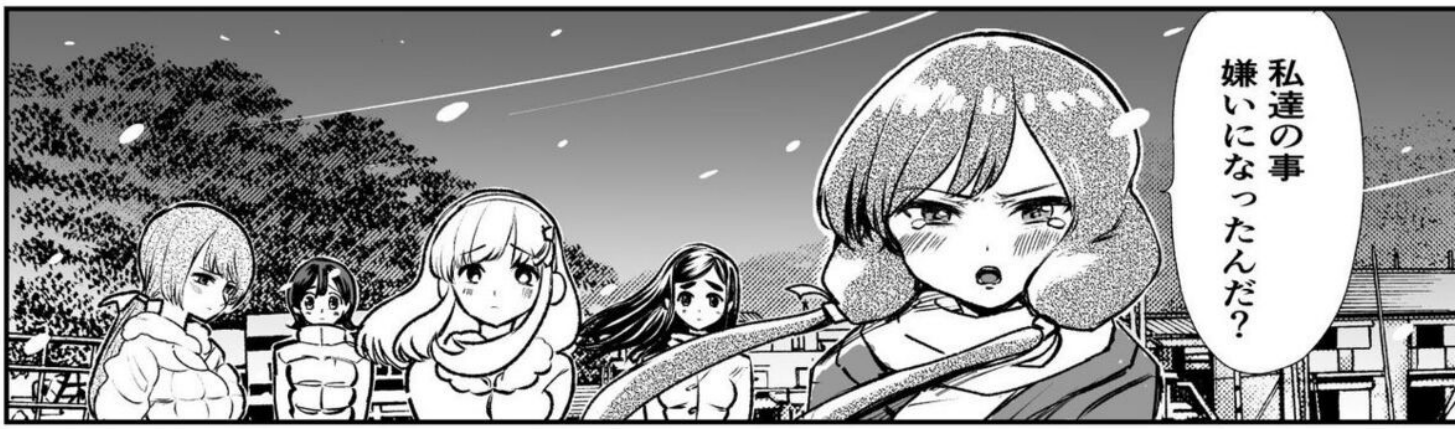

俺達は
まるで兄妹のように育った
あはははは


茜は子供のままじゃん
未だに甘い歯磨き粉
使ってるし
わ、私は
あの味が好きなの!!!


いつも
どこに行くにも
7人は
全員一緒


俺達7人には
この島で育まれた
なによりも強い
絆があった




私達の事
嫌いになったんだ？


皆んなで島の
学校に進学
すれば
いいじゃん
じゃあ何で
島を出て行く
なんて言うの？

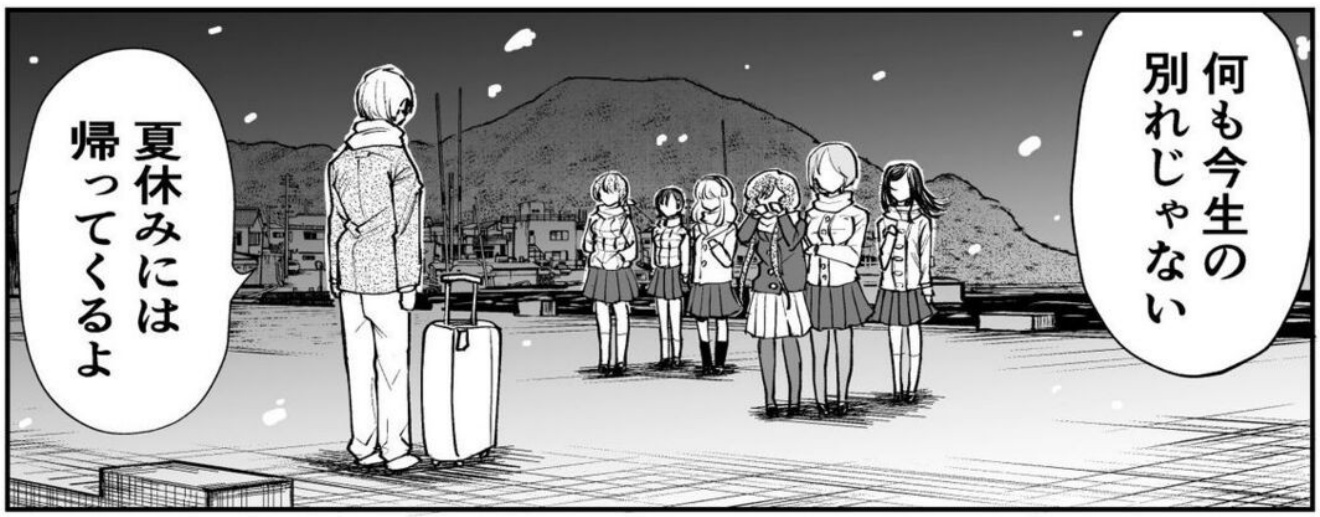

そんなわけ
ないだろう


言っただろう
学びたい事があんだ
そのためには
本州の進学校へ入って
大学を目指さないと


ふぐ
ふぐ
そんなのいいじゃん
私達とここで
暮らせばいいじゃん…
なんで…


茜、空が自分で
決めた事だよ
それ以上
邪魔したらダメだよ


空
茜ちゃんにここまで
言わせたって事
それだけは忘れちゃ
ダメだからね


何も今生の
別れじゃない
夏休みには
帰ってくるよ

こうして俺は
子供の頃から過ごしてきた島や
皆んなと離れ
一人　本州の高校へ進学した

ヒュルルルル

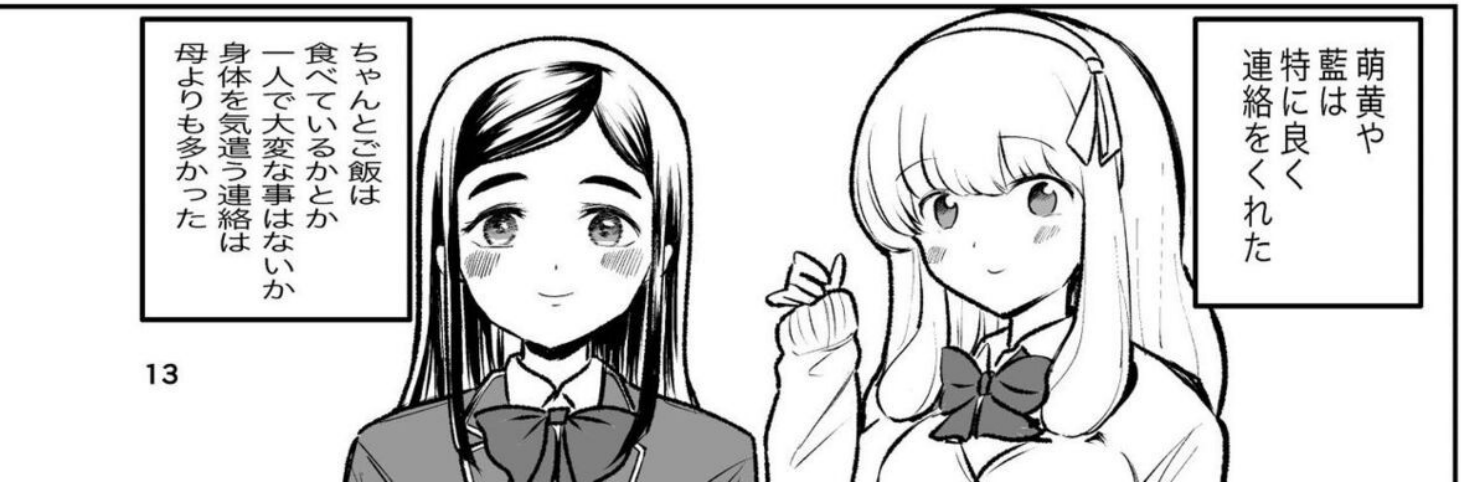
だけど大丈夫
俺には帰る場所が
あるから

ざあああ

俺達の絆は
離れていたって
何も変わらない

そう
思っていた

本州の生活が
始まってからも




初めての
独り暮らし
ずっと離島で
育った俺には


何もかもが新鮮で
わからない事だらけ
夜なのに人が
いる・・・
てか明るっ！


翠(あおき)や紫苑(しおん)や橙(ゆず)からも
本州はどんな所だ
どんなお店が
あるかと連絡がくる


茜からだけは
まだ一度も連絡が
来ていない


そうこう
している間に
入学式も終わり


学園生活が始まると
忙しさにかまけて
皆んなと連絡を取る回数も
減っていった


ねえ　春日井って
どこ中　出身なの


H島学校
だけど

*H島学校は中高一貫


えっ!?
あの離島出身なの!?
ガタッ




へー、春日井以外
全員女の子で
全生徒7人・・・
春日井だけ
進学するために
本州(こっち)来たんだ

てことは
ハーレムな生活を
捨ててきたんだあ
もったいないなー

ハ、ハーレムとか
そういうんじゃ
ないから

ふーん

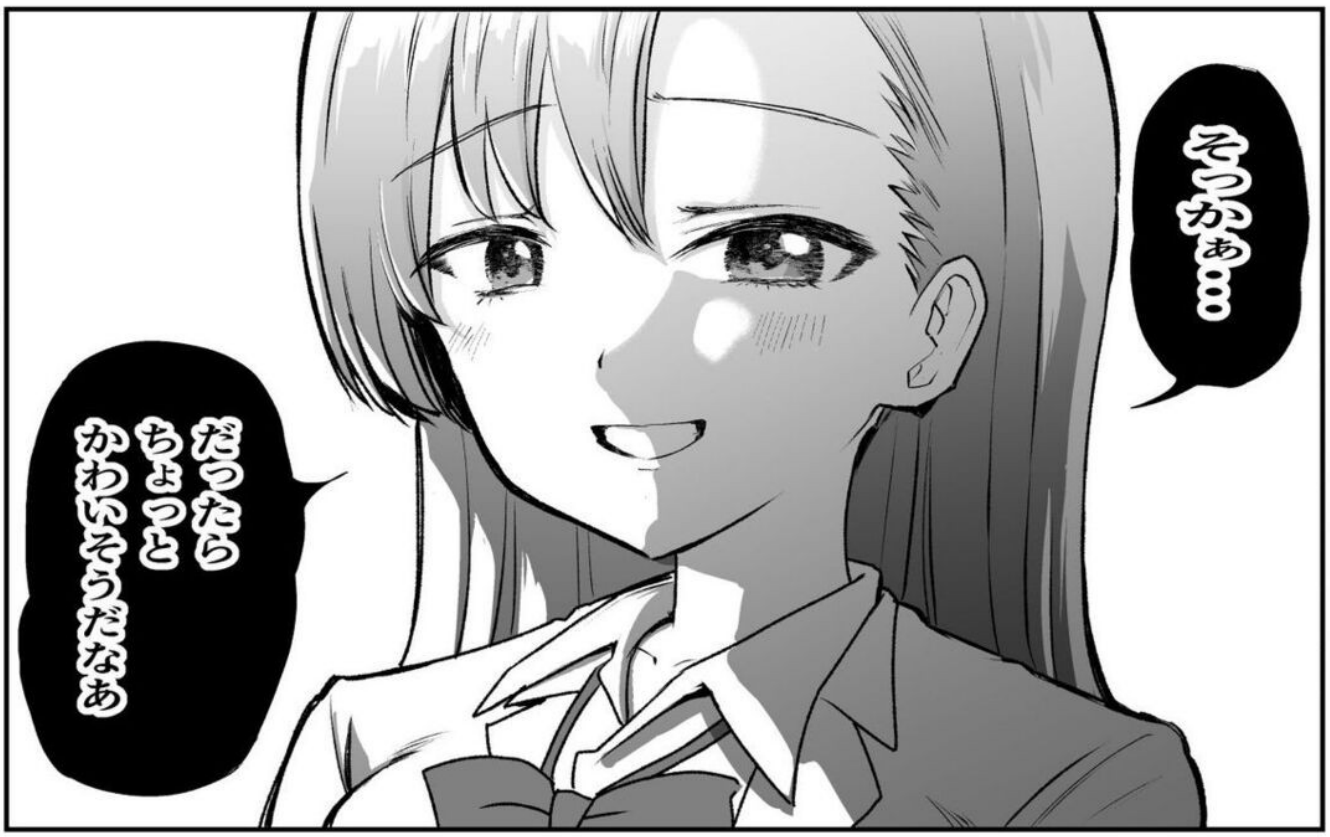
じゃあさぁ・・

春日井にとって

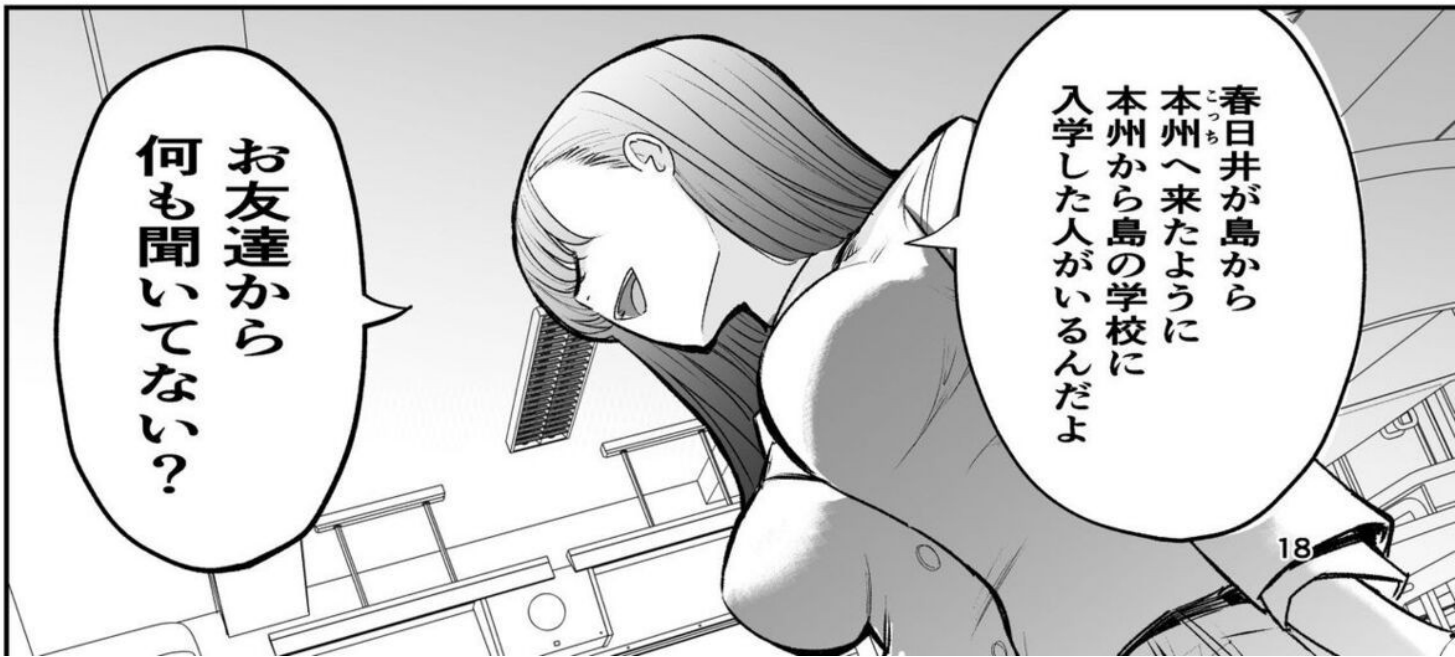
その娘達は
大切な人達
なのかな

当たり前だよ

六人とも
一番大切な仲間だよ


そっかぁ…
だったら
ちょっと
かわいそうだなあ


え
それ
どういう
…？


春日井が島から
本州へ来たように
本州から島の学校に
入学した人がいるんだよ
お友達から
何も聞いてない？


本州から島の学校へ？
そんな話し…聞いてない…


その引っ越して行った男がね
こっちでは有名なやばい奴なんだよね

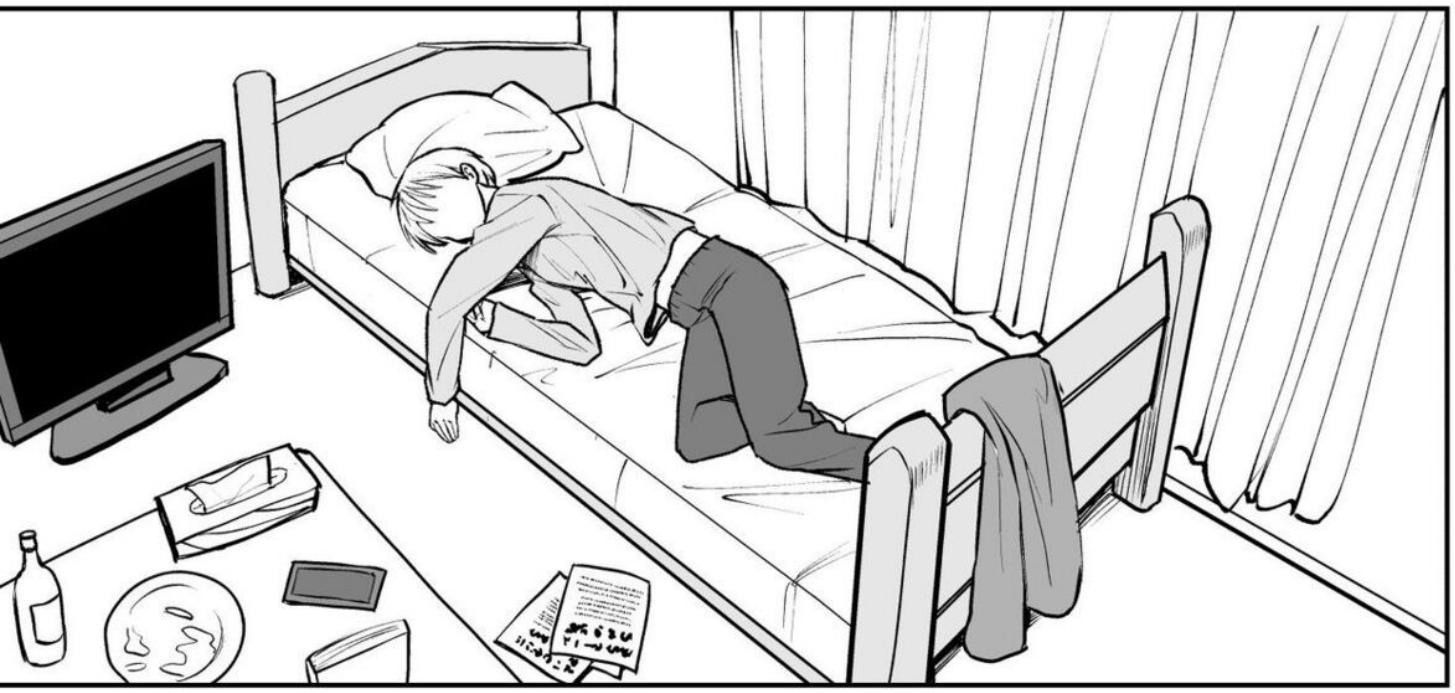

男…。
やばいってどんな風に…？。

そいつさー…。


女の子に
見境がない
すっごい
ヤリチンなの



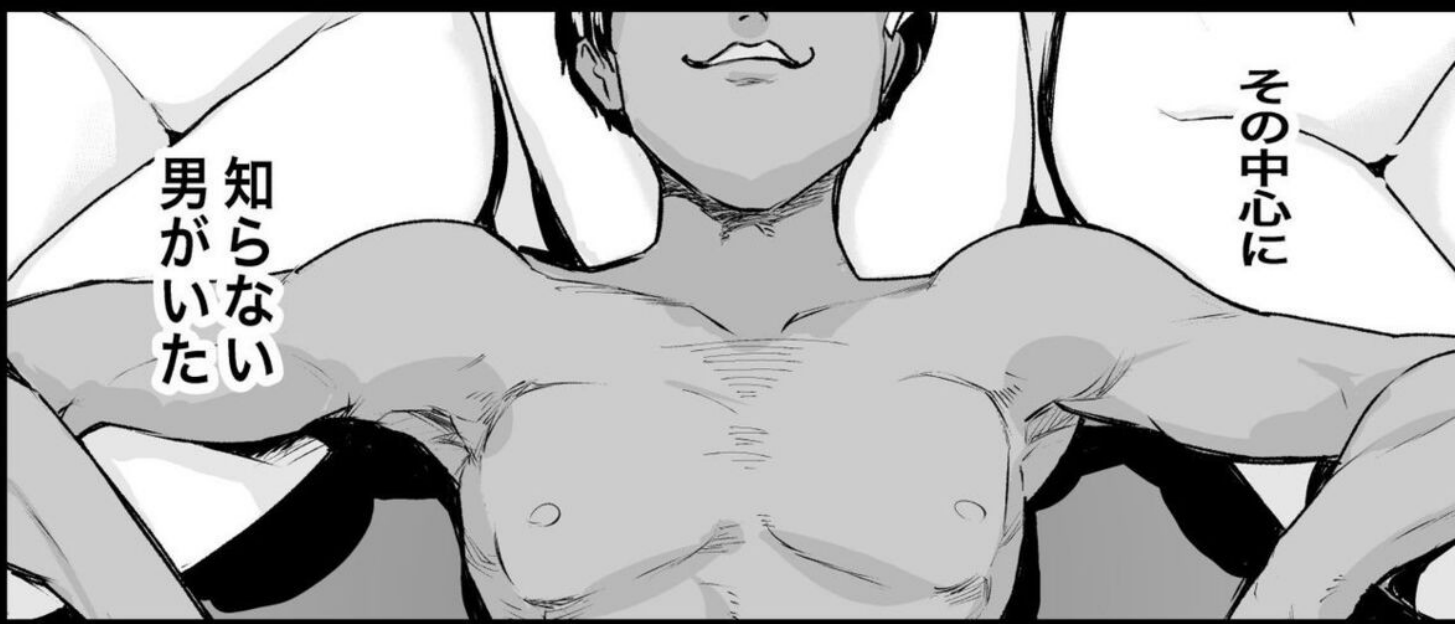




その夜
皆んなの夢を
見た


皆んなの
見慣れた笑顔と
笑い声


けど
皆んなは
俺が
見た事ない姿で


その中心に
知らない
男がいた


黒崎龍司
手が早い奴でさぁ
もしかしたら
もう


お友達全員
食べられちゃってるかもね

茜達に限って
そんなバカな話しが
あるわけない

けど、

春日井が島から
本州(こっち)へ来たように
本州から島の学校に
入学した人がいるんだよ

あの話は本当なの
だろうか？

だったとしたら
島の皆んなは
なんでその事を
俺に黙っているんだ？

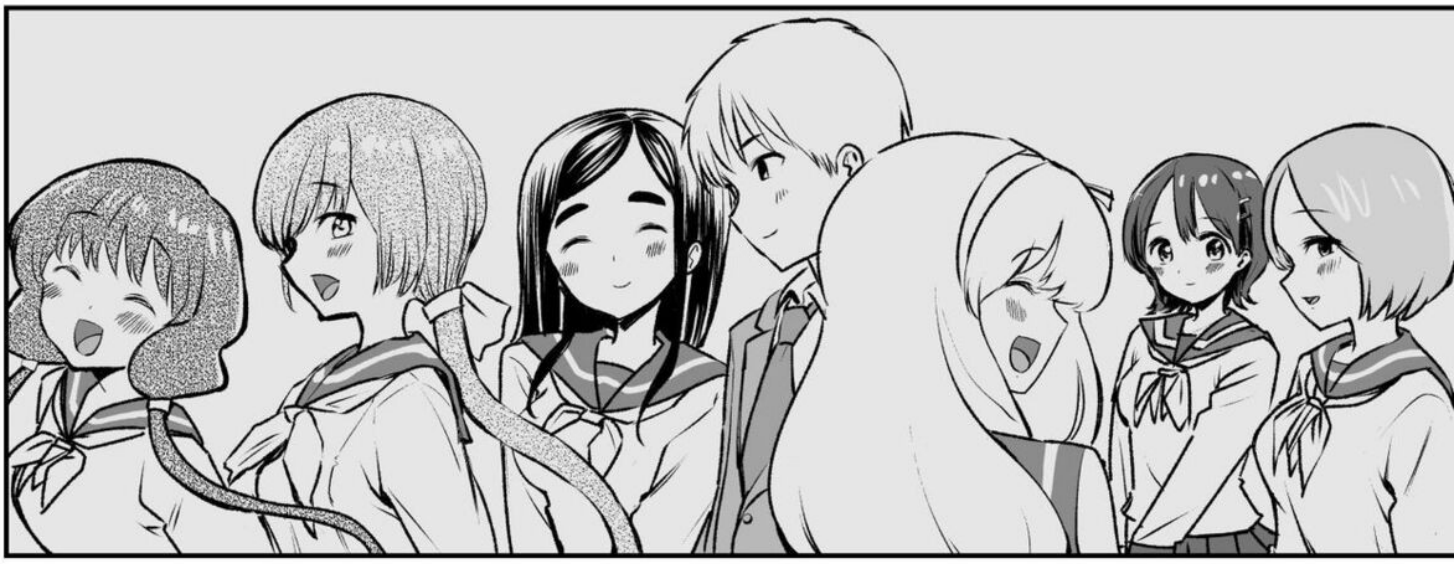
自分から
皆んなに
聞くのが
怖い


どうしても
不安が拭えない俺は
皆んなに内緒のまま


一度島に帰った


学校帰りに
いつも皆んなで
通った道


こんなすぐに
帰ってくるなんてな…
あせ
あせ
あせは

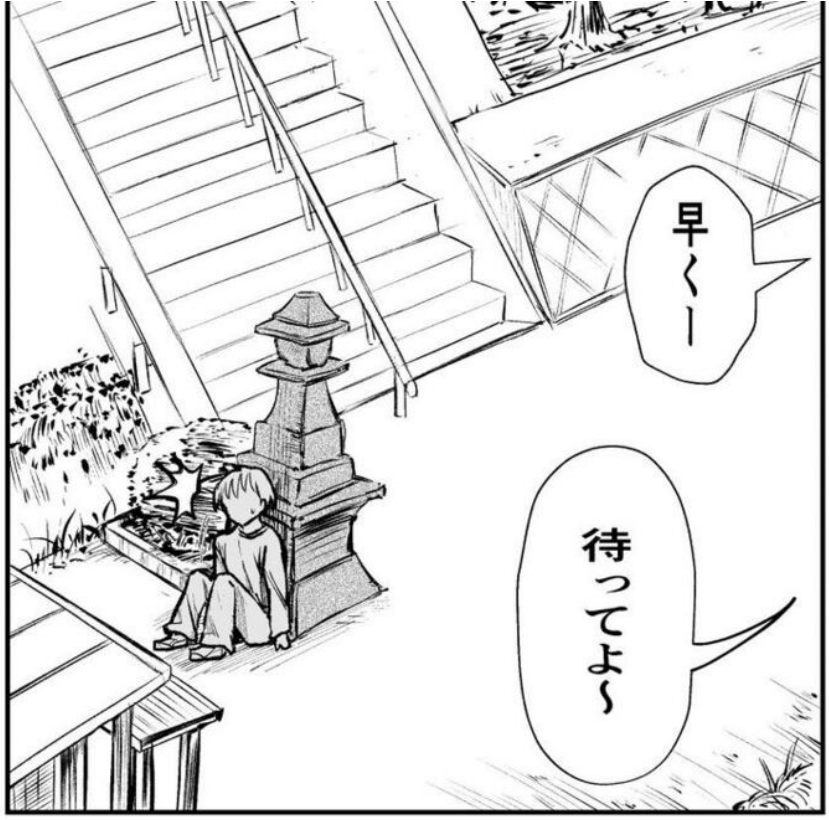





ここで
待っていれば






早〜ー
待ってよ〜




茜ー。


待てよ
こっちはお昼足りなくて
腹減ってるんだから
カツ丼
食って行こうぜ
いや
カツ丼は
重いわよ

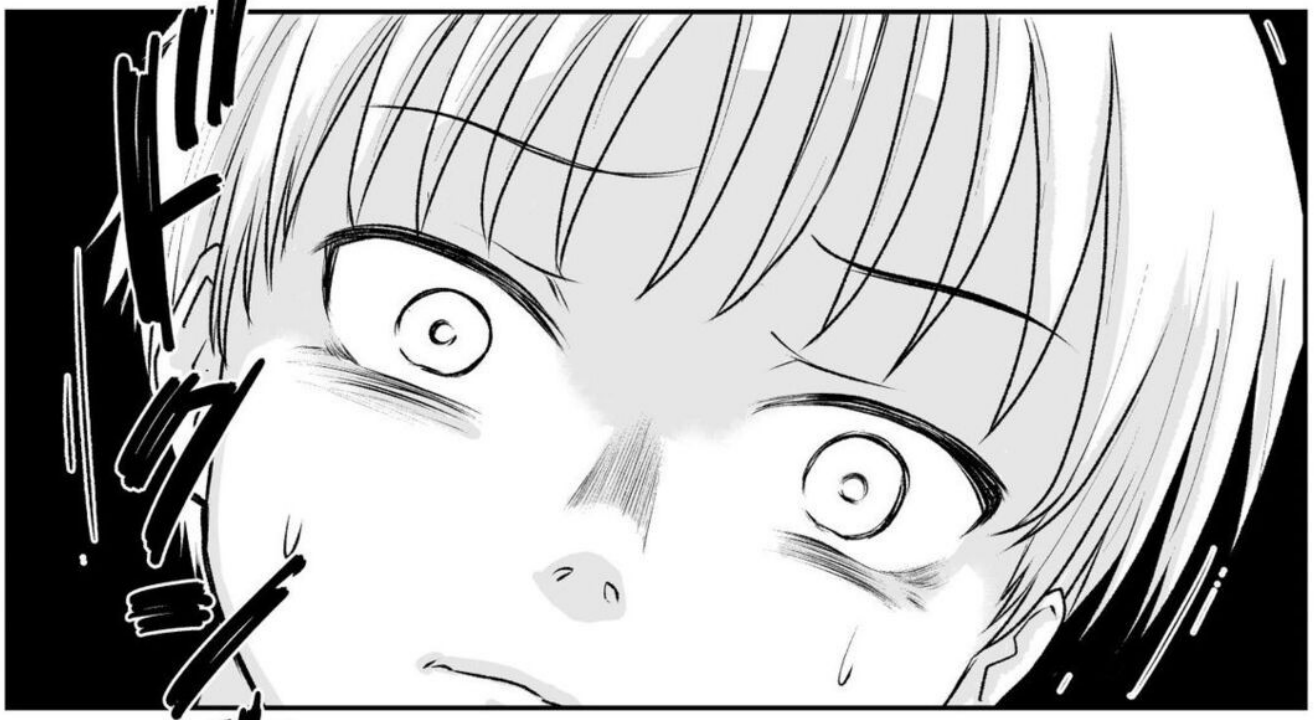

翠
相変わらずだな


茜と翠
いつも元気な
あの二人が先頭で


二人とも
歩くの速いよ～


萌黄や
紫苑はマイペース
なんだよな


この声は
萌黄
はっ







アイツが・・・

本州から島の学校に入学したー

本当だったんだ・・・

本当にこの島の学校に・・・




はっ!!
どうした？
茜


ササッ

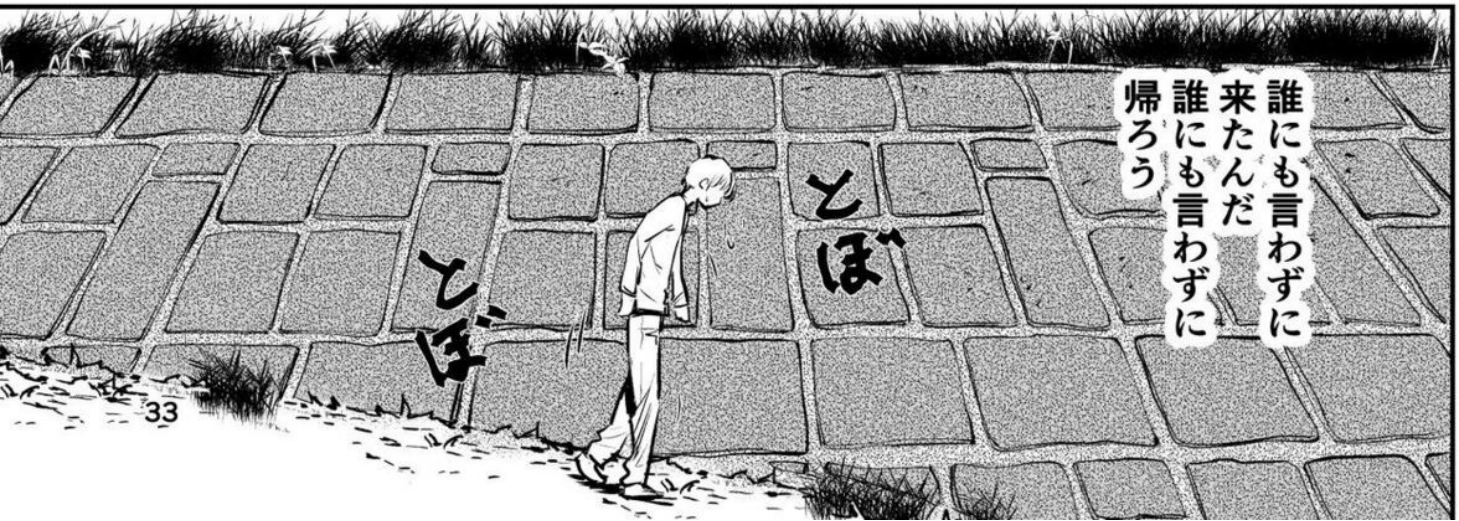

今、空が
居た気がした


茜、空に
会いた過ぎて
幻覚でも
見たのかな？
ジッ
茜
寂しがり屋
だもんねー
ばっ
ちっ！違う！
そんなんじゃ！

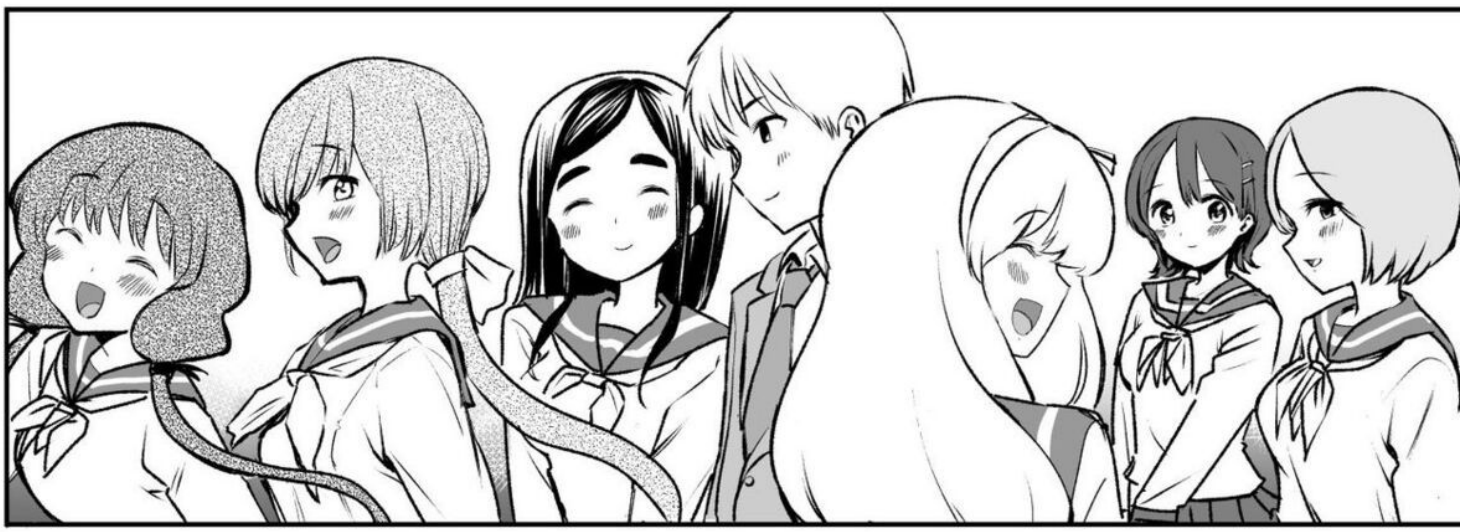

あははは
橙(ゆず)
二人がいじめる
ガシッ
私はわかるよ
茜の気持ち
私だって
空に会いたいもの


橙(ゆず)・・・




誰にも言わずに
来たんだ
誰にも言わずに
帰ろう
とぼ
とぼ


ほんの少し前まで
あそこに居たのは
俺だった






あれ？
そういえば
藍は？
さっき
藍が
居なかったぞ
・・・？
34

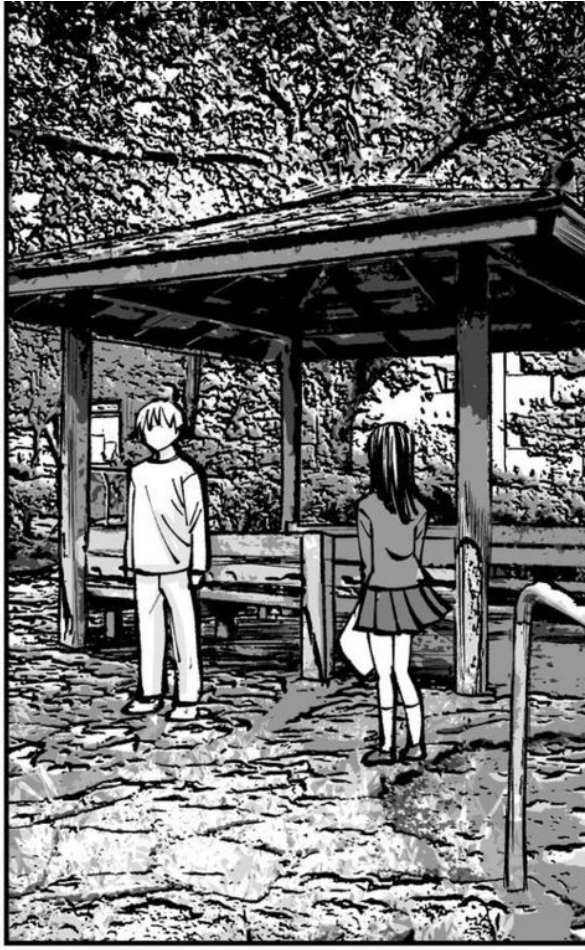

あれ？
空？


藍・・。

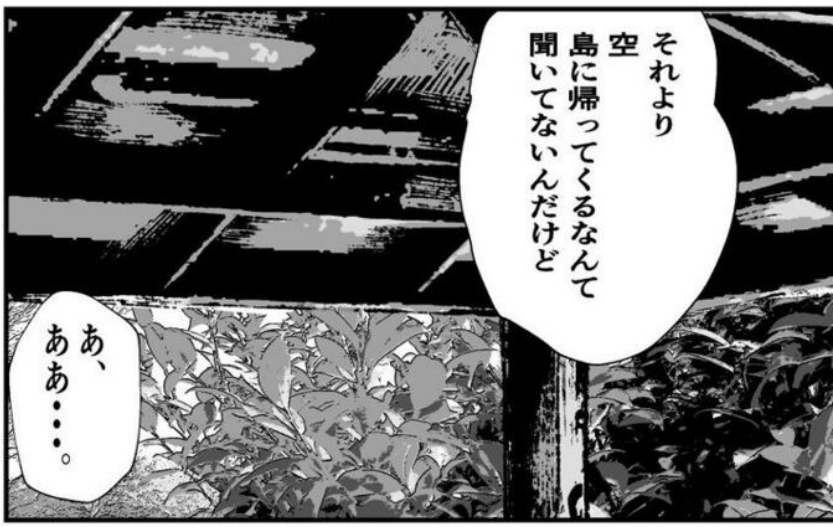

やっぱり
空だー
なんでー




藍は皆んなと
一緒に帰らなかったのか？
今日は帰りに
おじいちゃん家で
お野菜貰ってきてって
お母さんに頼まれてたから
ガサッ



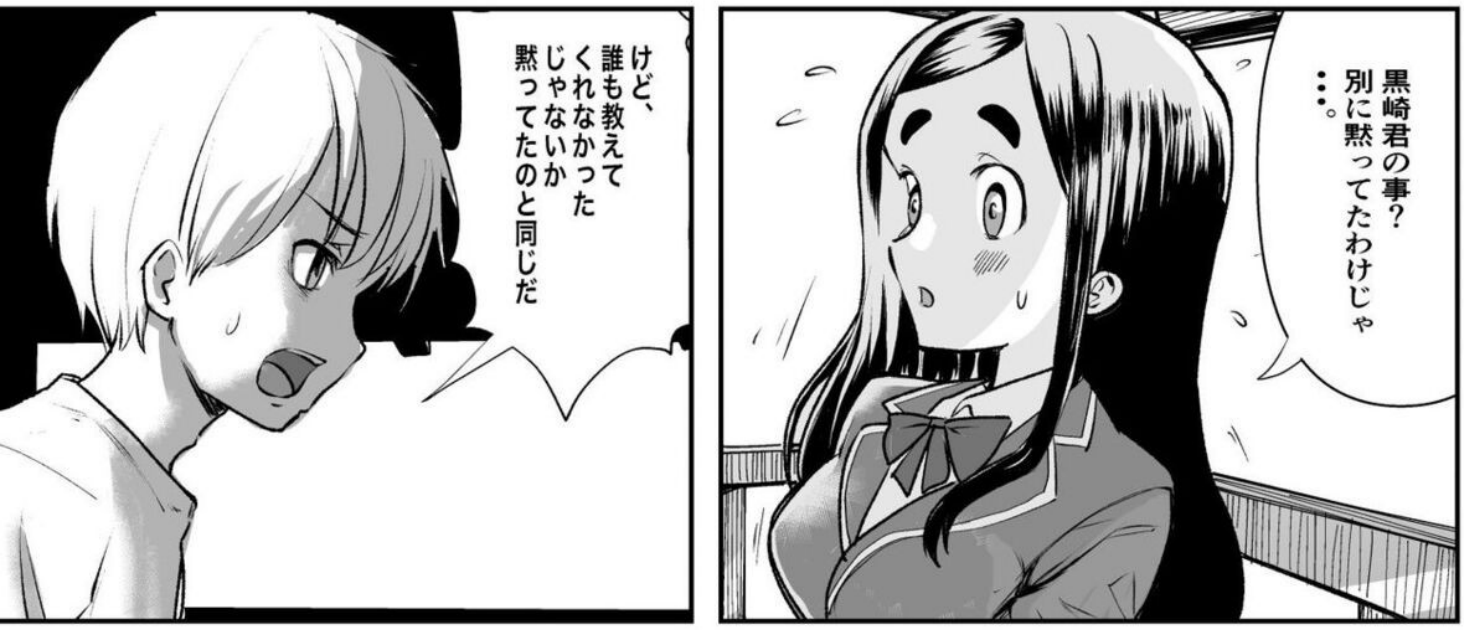

誰にも言ってない
から…


それより
空
島に帰ってくるなんて
聞いてないんだけど
あ、
ああ…。


島に帰って来たのに
私達に
会わないつもり
だったの？


どおして？

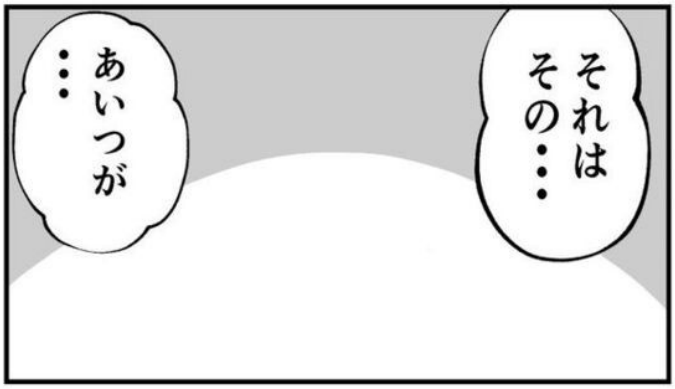

私達は
空が島から出て行って
寂しかったのに
空はそうじゃないんだ
本州の生活の方が楽しいんだ
そ、
そうじゃないよ
様子を見に来たんだ
皆んな
俺に黙っていただろう
新しく男が
引っ越して来た事


黒崎君の事？
別に黙ってたわけじゃ
…。
けど、
誰も教えて
くれなかった
じゃないか
黙ってたのと同じだ

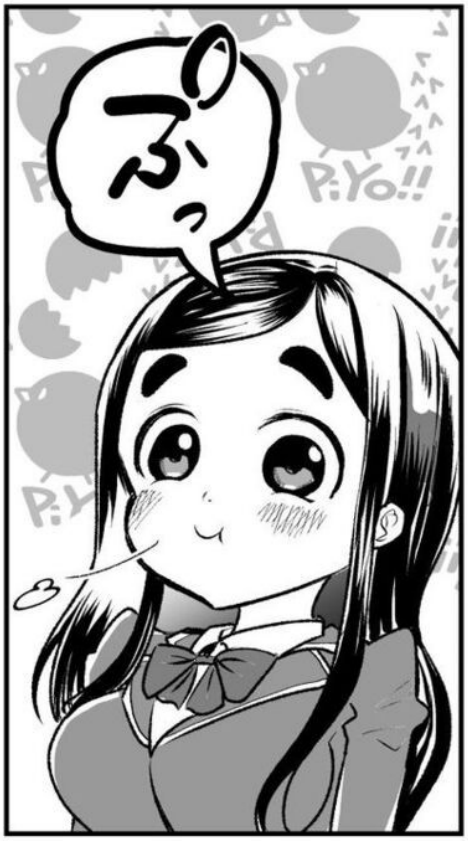

だって
空　全然返事
くれないじゃん
こっちだって
心配してるのに
それなのに
怒るなんて
ズルだよ


けど、向こうで
あの男の
良くない噂を
聞いたんだ
ソレで・・・


いや、別に
怒ってるわけじゃ・・
初めての
一人暮らしで
本当に忙しくて
ゴメン・・・
ズキッ


それは
その・・・
あいつが
・・・


黒崎君の
良くない
噂
どんな？


ぷっ
P.Yo!!


女好きだって
もじ
もじ
かぁぁぁ

あははは
何それ

確かに
黒崎君
モテそうな感じは
あるけど

そ、そういう
意味じゃなくて

けど
この島の皆んなは
恋愛とか
そういうのは
疎い娘ばかりだよ

空とだって
ずっと一緒にいたって
いっさい
そういうのは
なかったでしょ

うん・まあ
・・・。



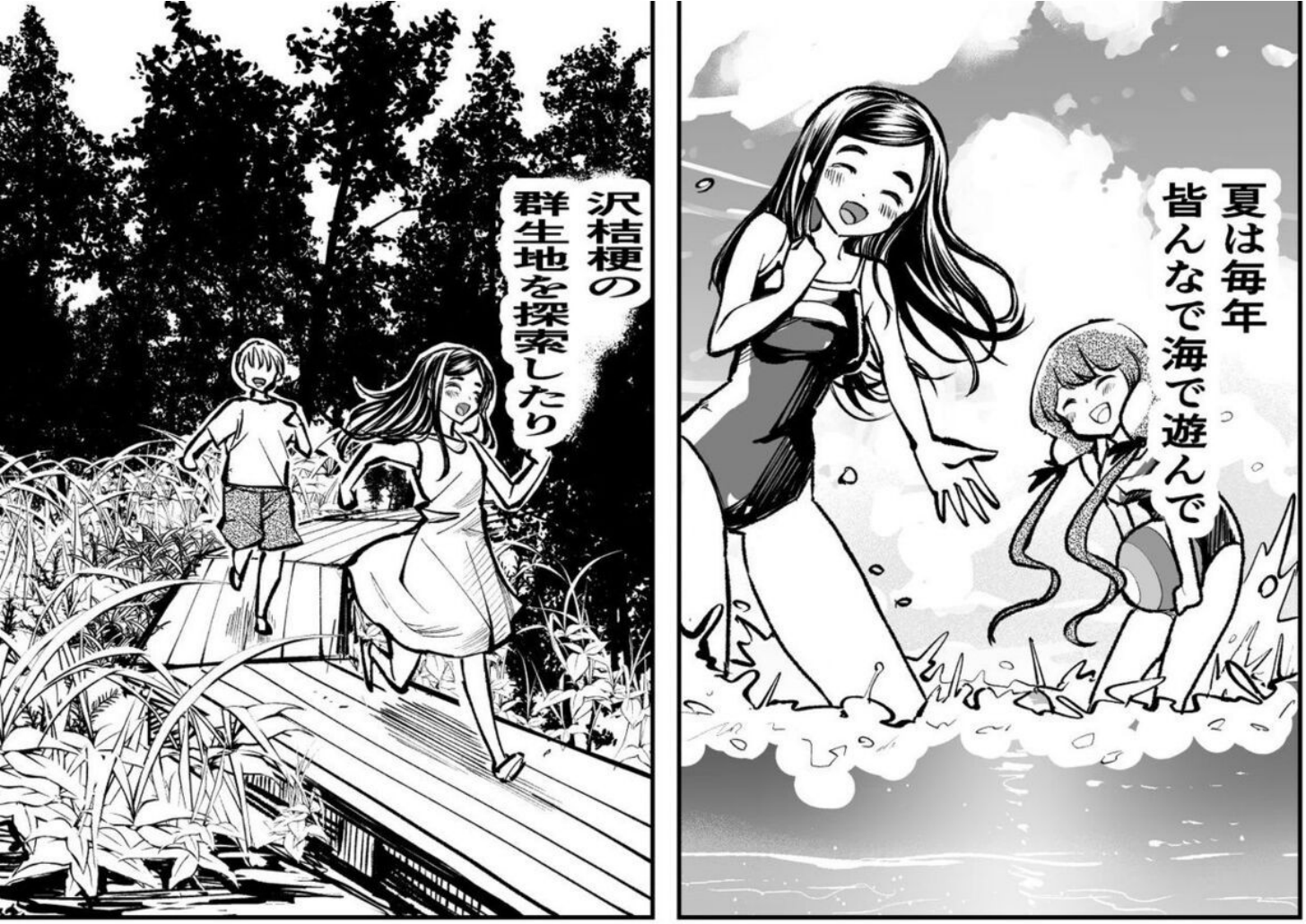
ヤキモチなのかは
わからないけど
さっき茜達が
一緒に帰る姿を
見たんだ

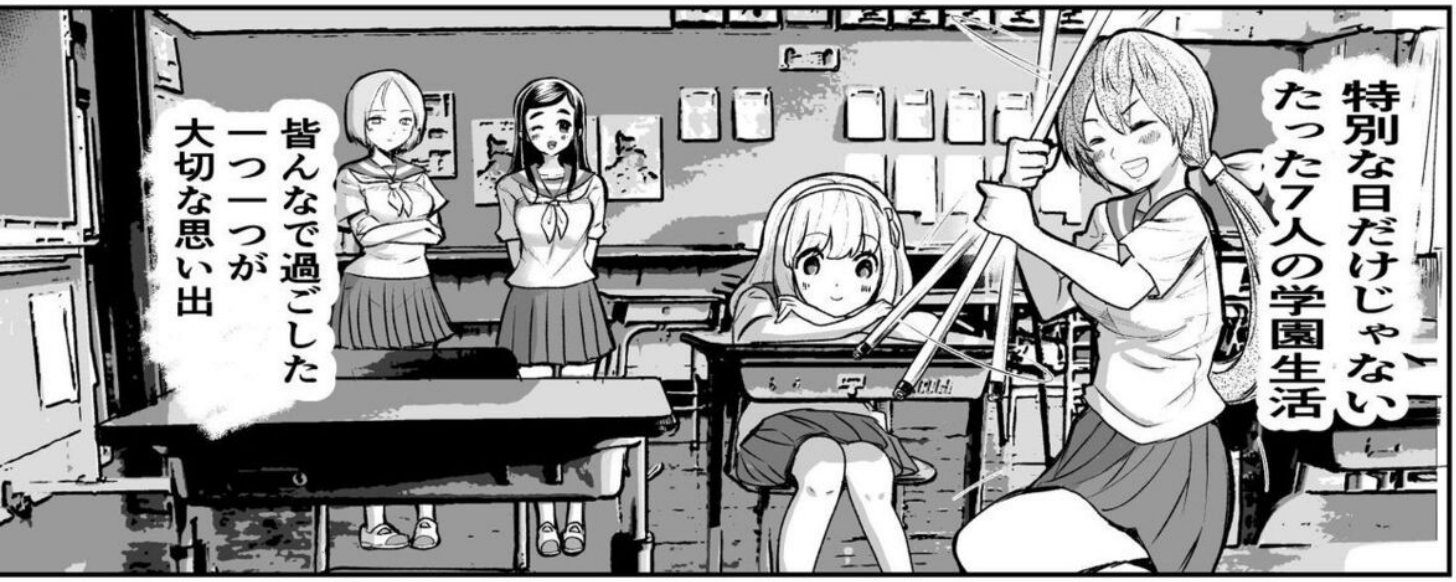

この間まで俺のいた場所に今はあいつがいる


ソラ
それは違うよ


え


この島でたった7人だけの子供達
私達はいつだって一緒だったよね


夏は毎年
皆んなで海で遊んで
沢桔梗の
群生地を探索したり


特別な日だけじゃない
たった7人の学園生活
皆んなで過ごした
一つ一つが
大切な思い出


だからね
空


空の代わりなんて
絶対いないんだよ

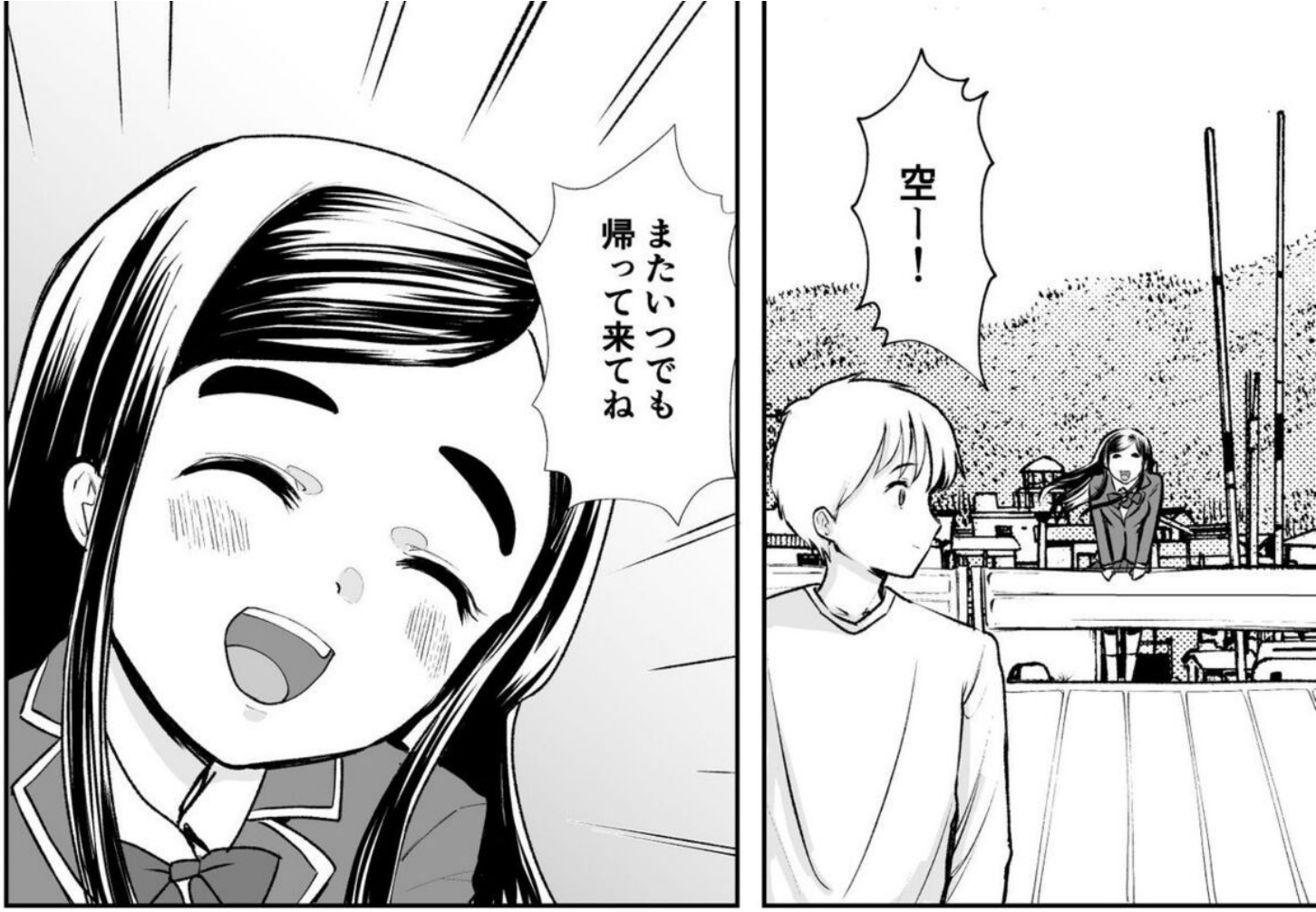



藍・・

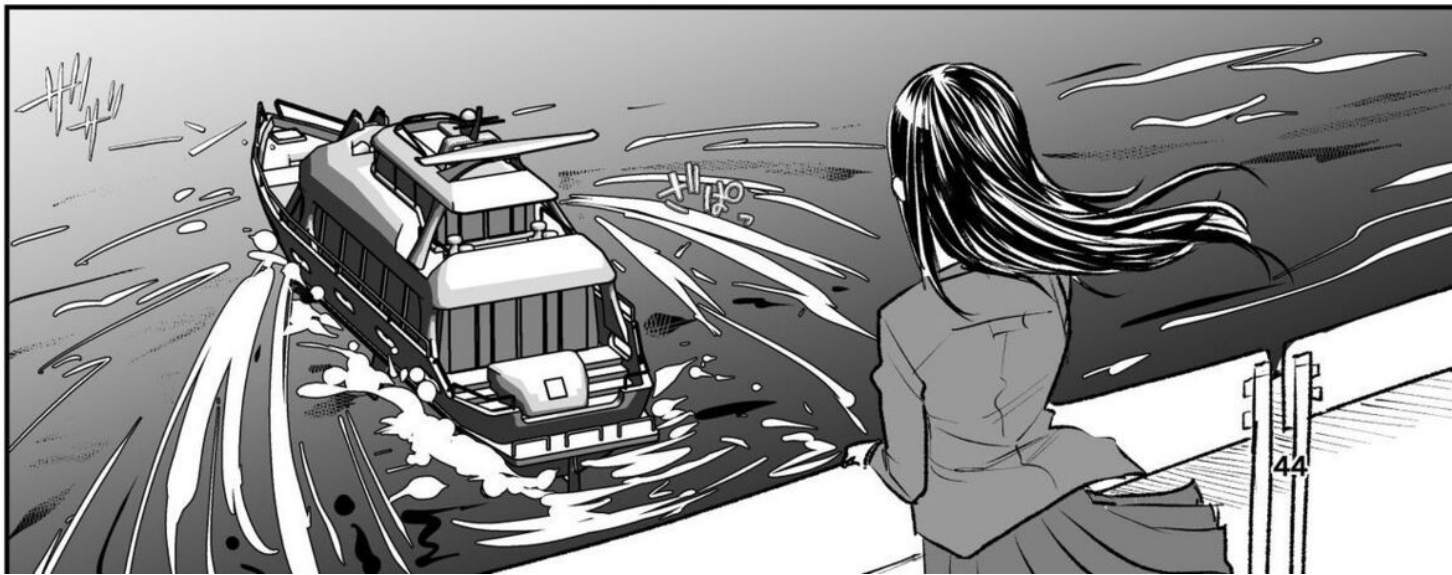



ありがとう藍
俺は自分の帰る場所が
なくなるんじゃないか
不安だったんだ
だけどそんな事ないんだ
俺達7人には
一緒に過ごしてきた
何よりも強い絆があるものな


43


空ー！
またいつでも帰って来てね






サーン…
サーン…


サーン…
サーン…



あんな
冗談をまに受けて
飛んで帰ってきて
しまって
今思えば
恥ずかしいな

もう
お友達全員
食べられちゃってる
かもね




それにしても
凄い顔してるよ
えっ!?
顔・・・?
撮って
あげる!!
はい、寄って
なんで
一緒に
撮るの?
いいから
いいから

カシャ
むにっ

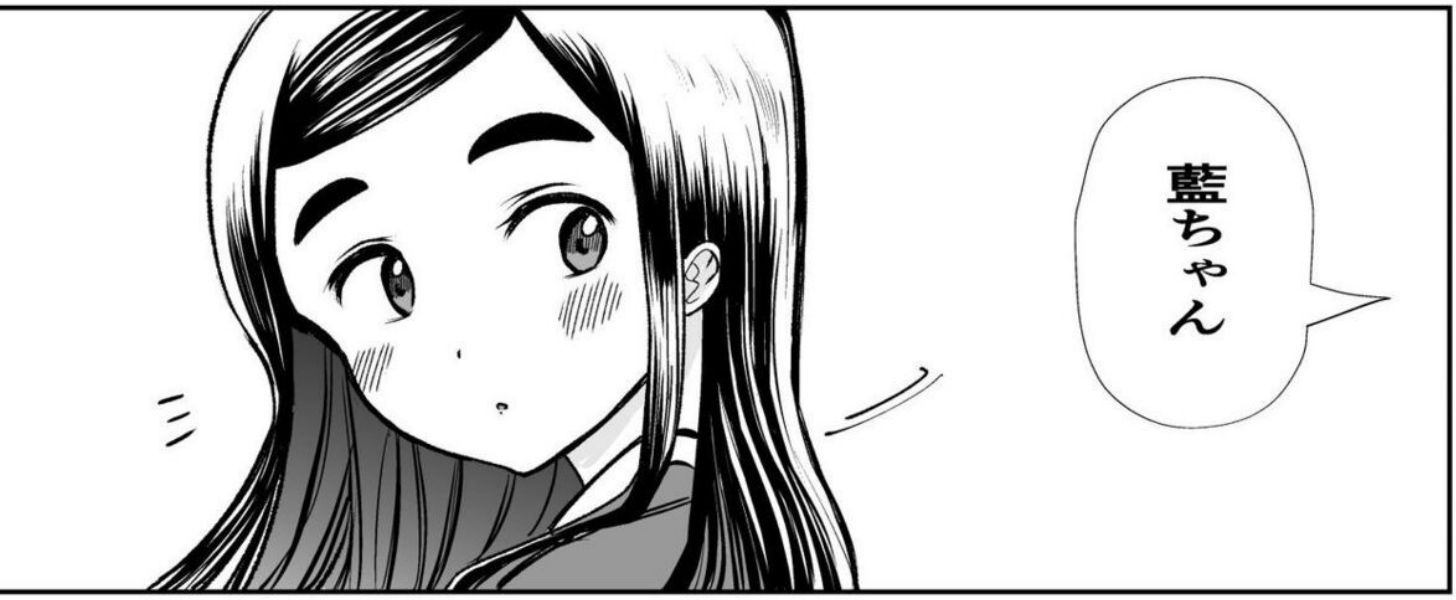

ハハ・・・
本当にひどい
顔してるな
俺・・・。
ざばっ
47





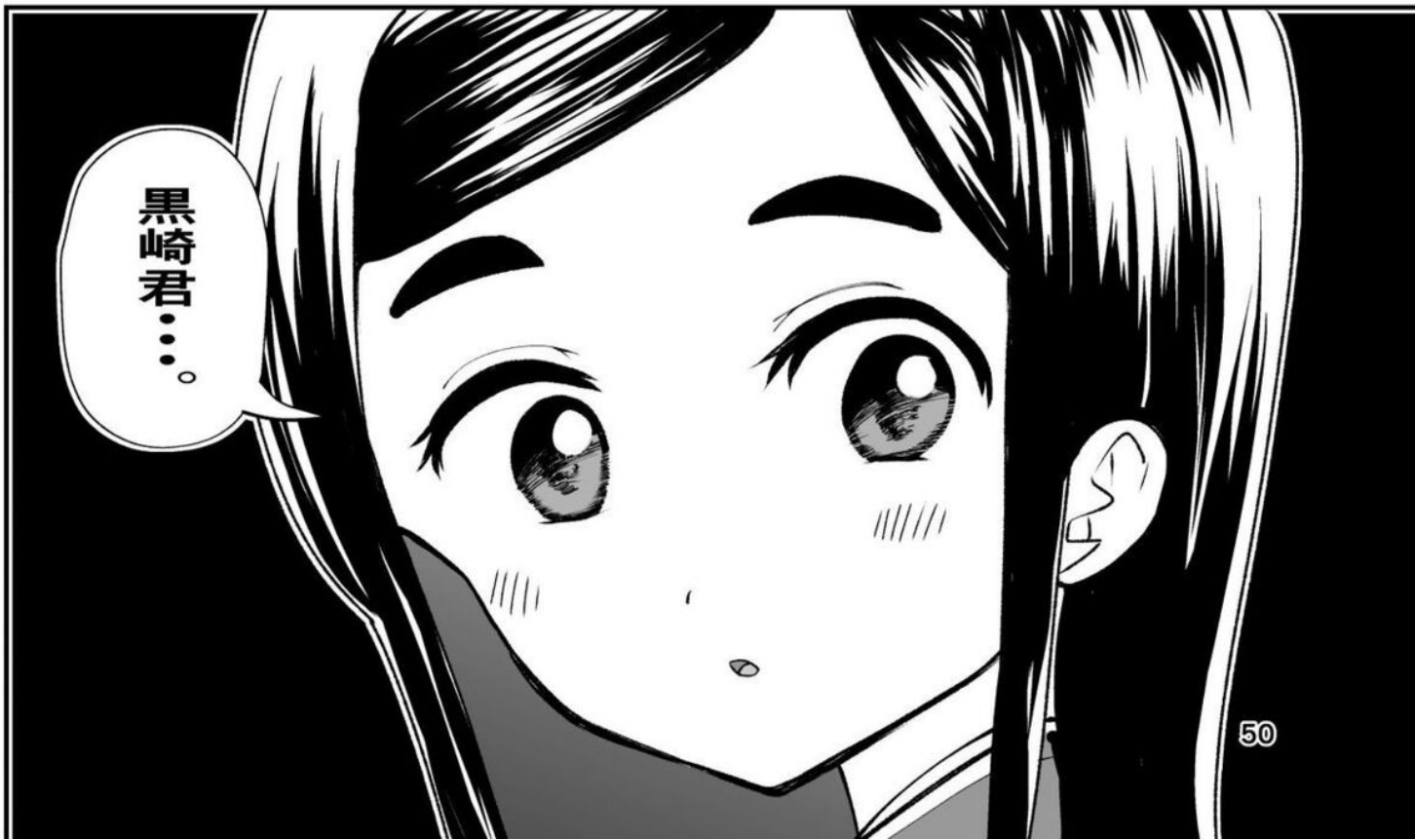





藍ちゃん

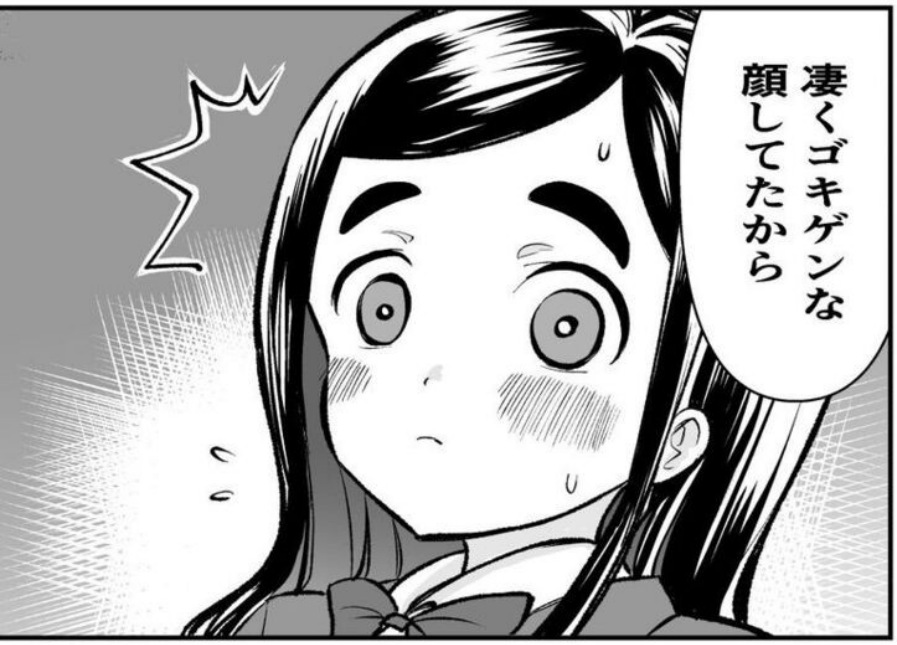


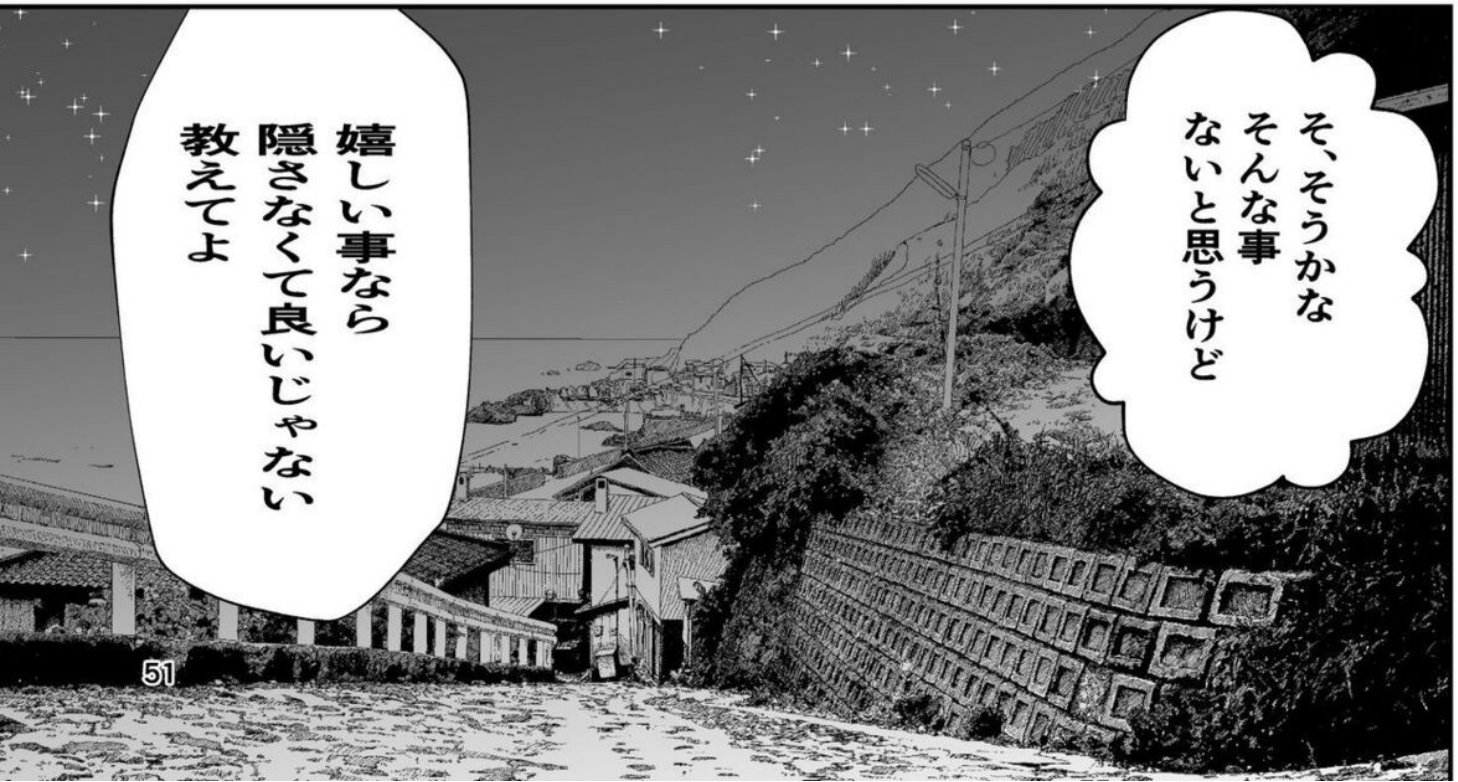


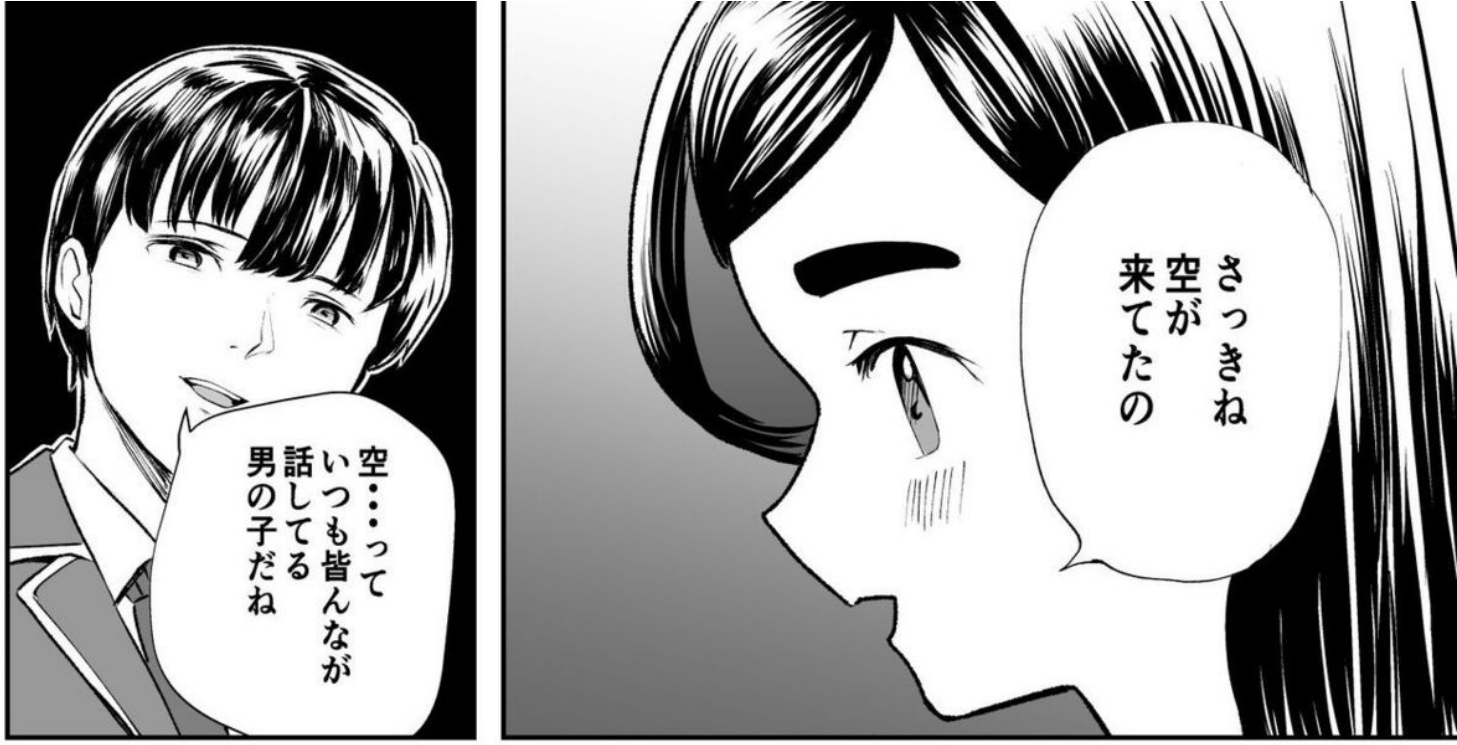

黒崎君・・・。

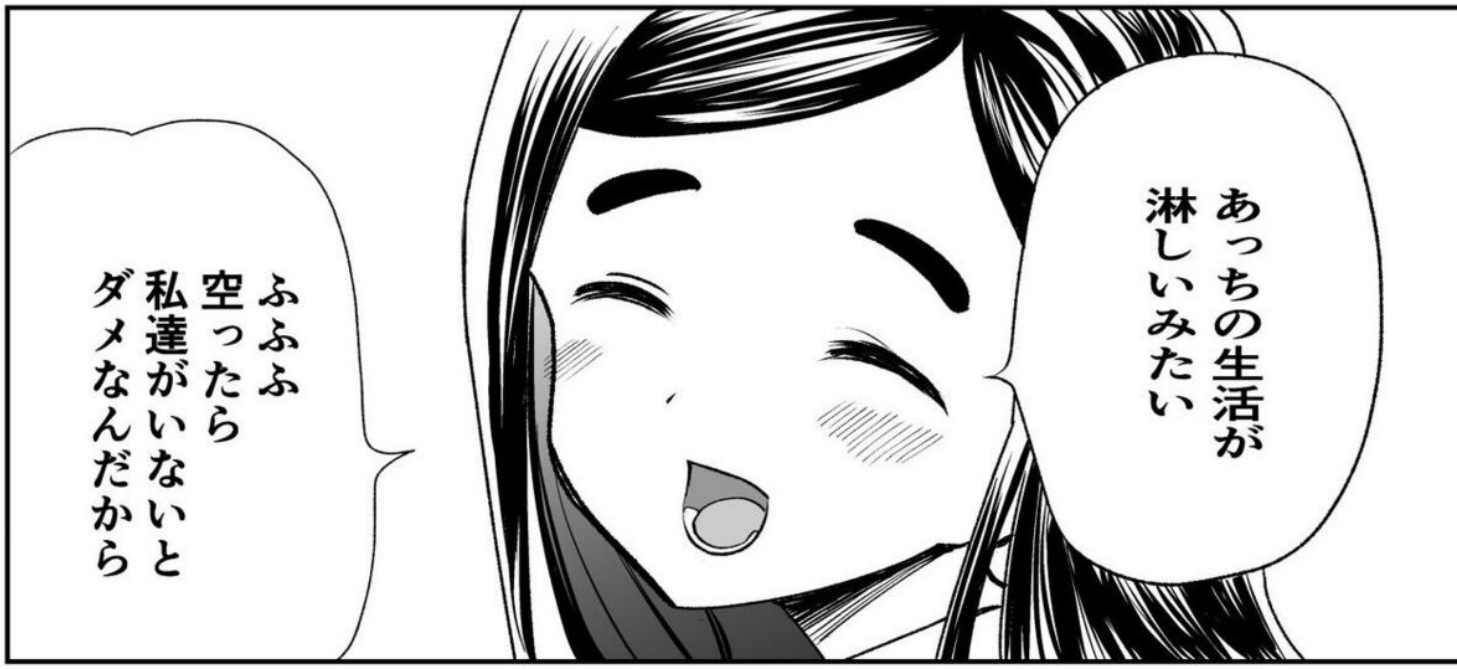

野菜
運ぶの手伝おうと
思って
いいよ
そんな
良いから
貸して
あ、
ありがとう


何か良い事
あった？
え。

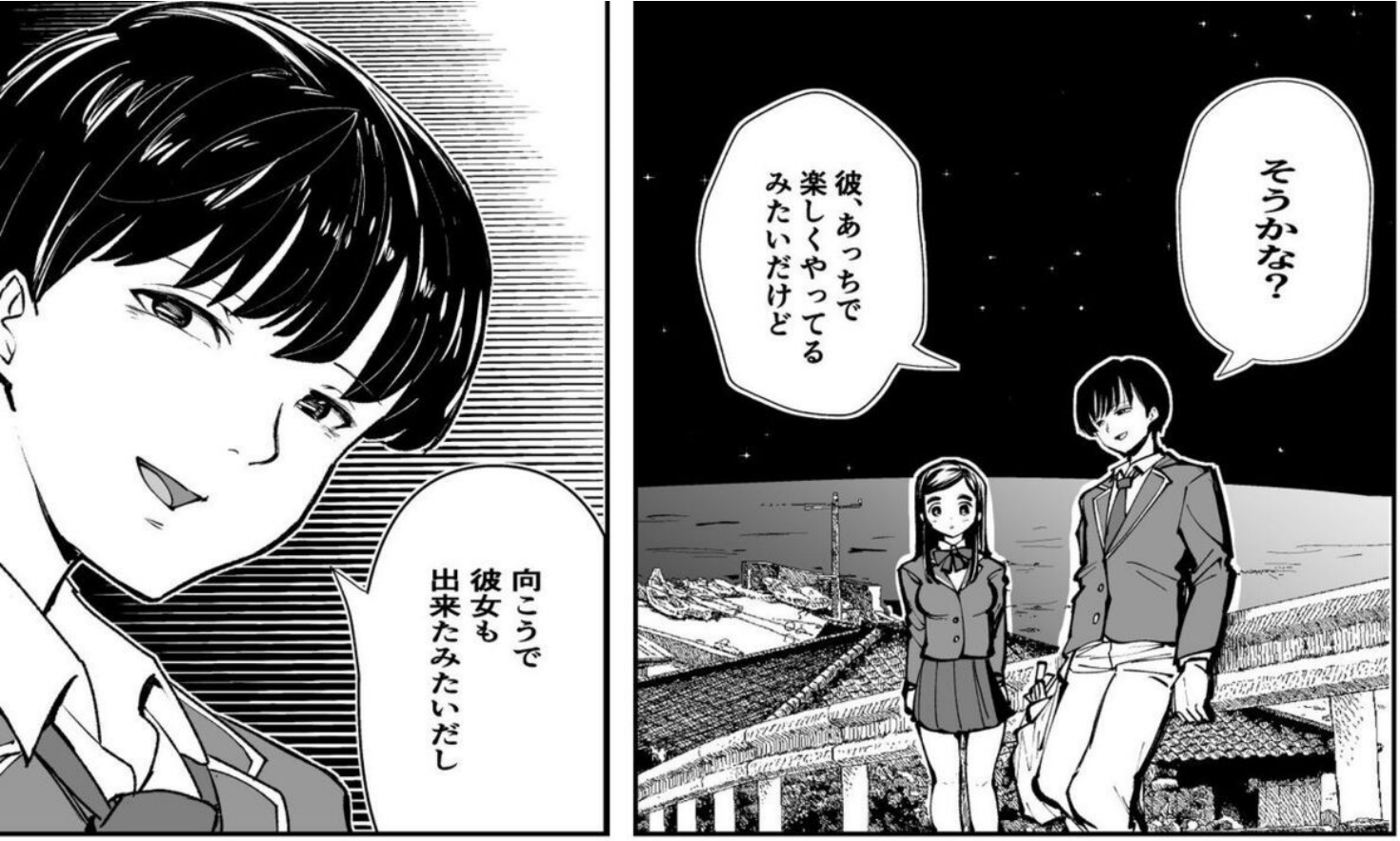

凄くゴキゲンな
顔してたから

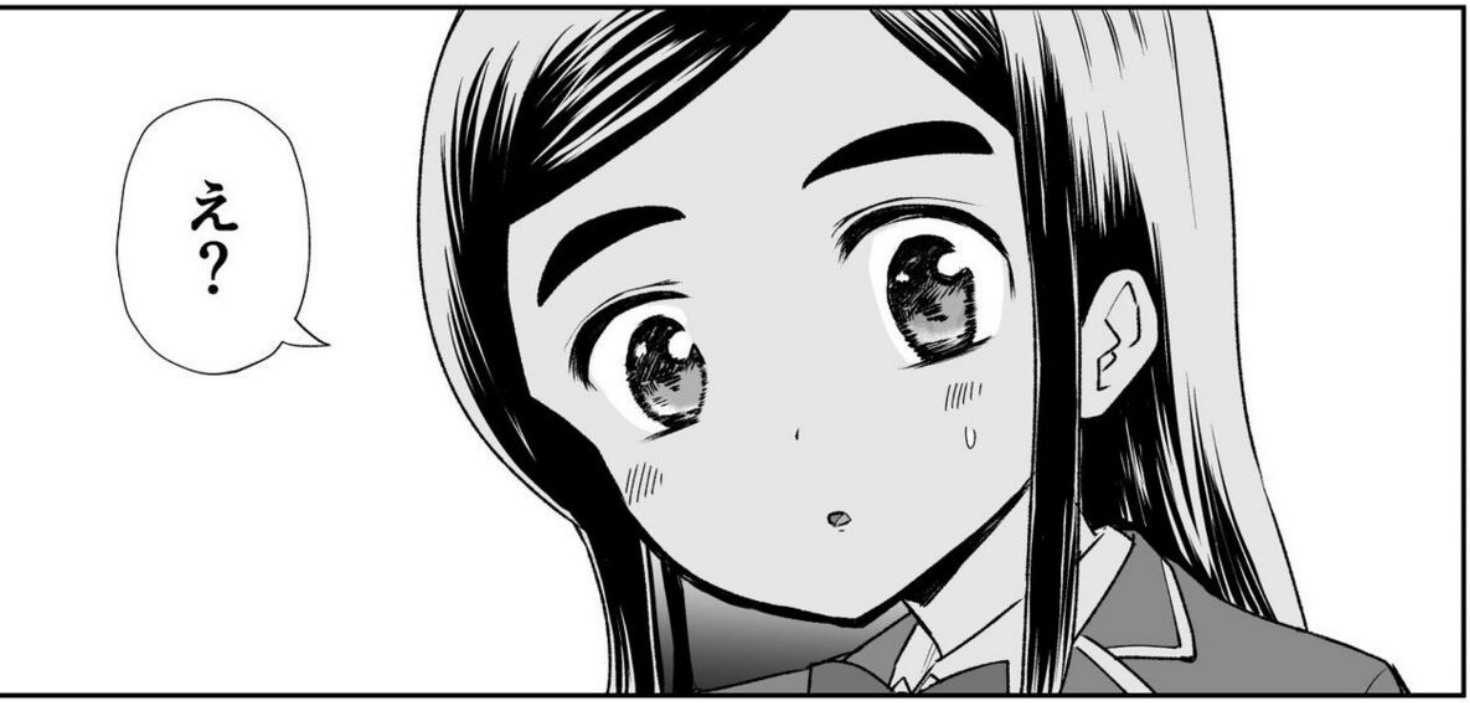

そ、そうかな
そんな事
ないと思うけど
嬉しい事なら
隠さなくて良いじゃない
教えてよ

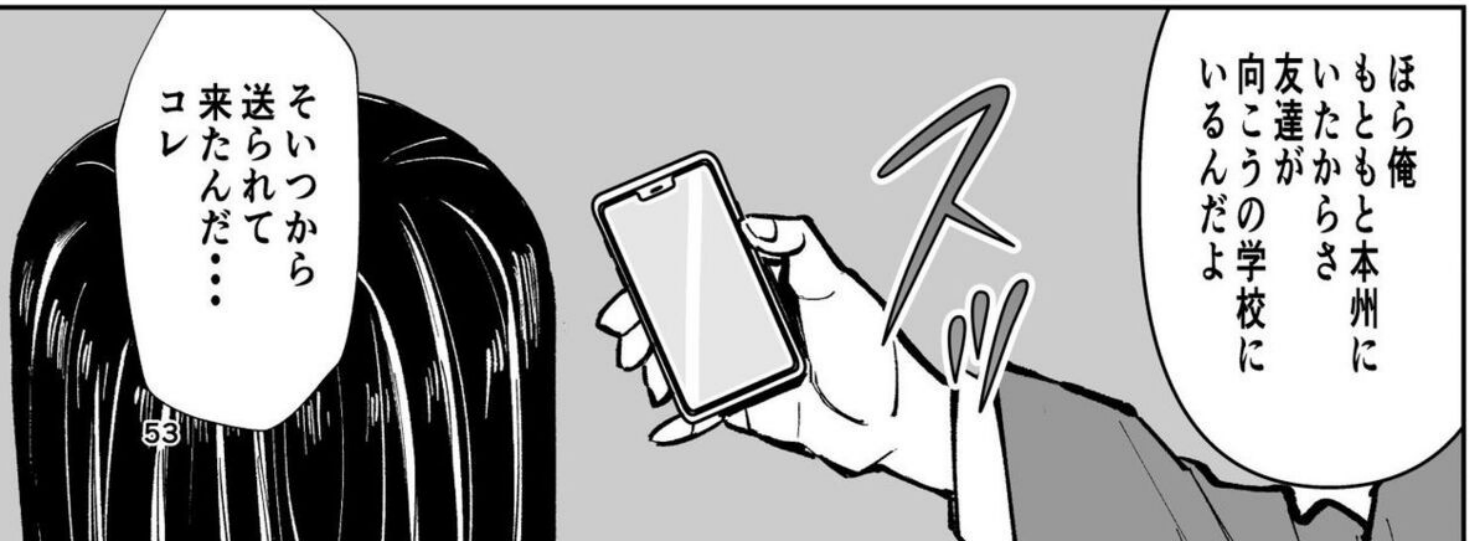

さっきね
空が
来てたの
空・・・って
いつも皆んなが
話してる
男の子だね

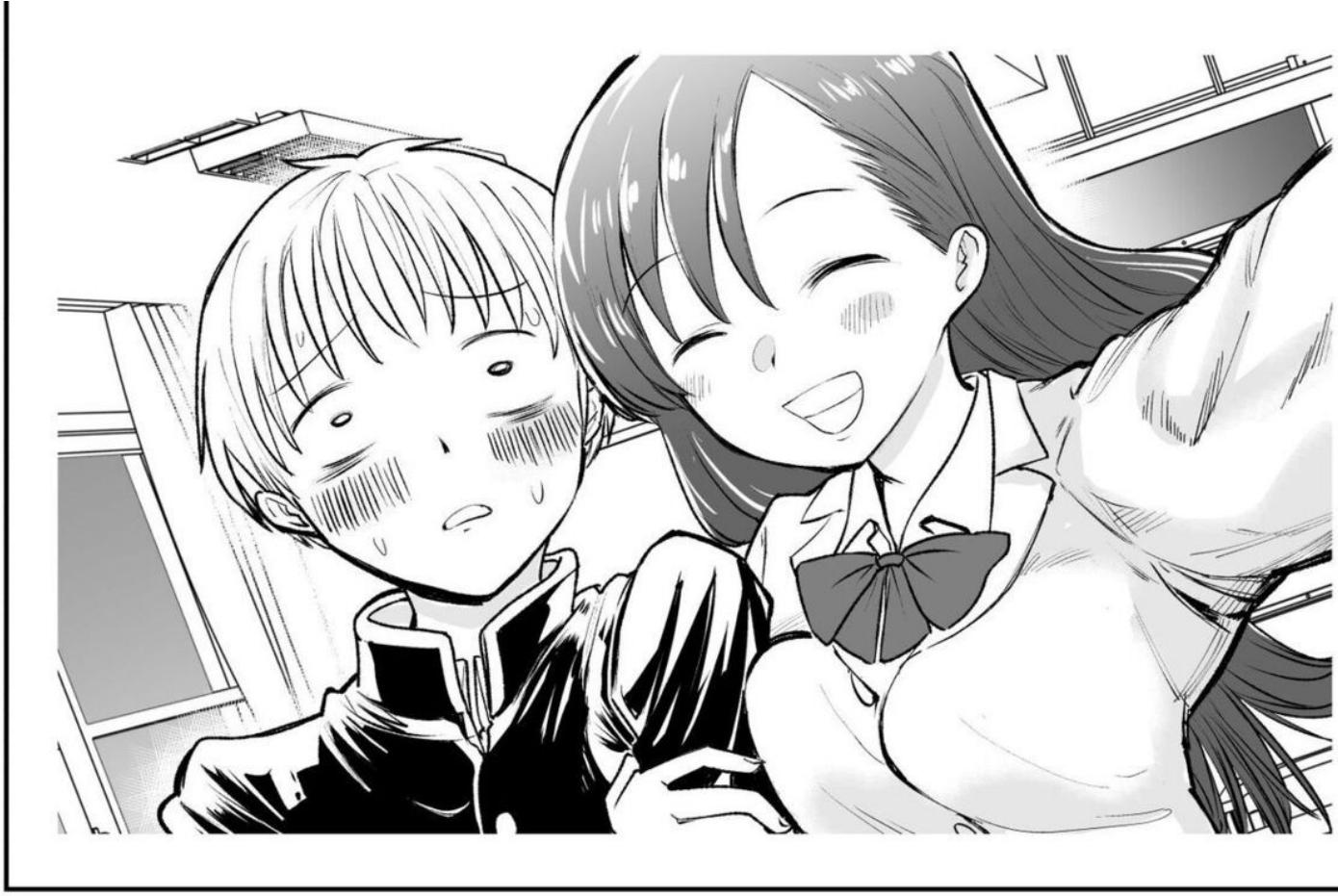

あっちの生活が
淋しいみたい
ふふふ
空ったら
私達がいないと
ダメなんだから

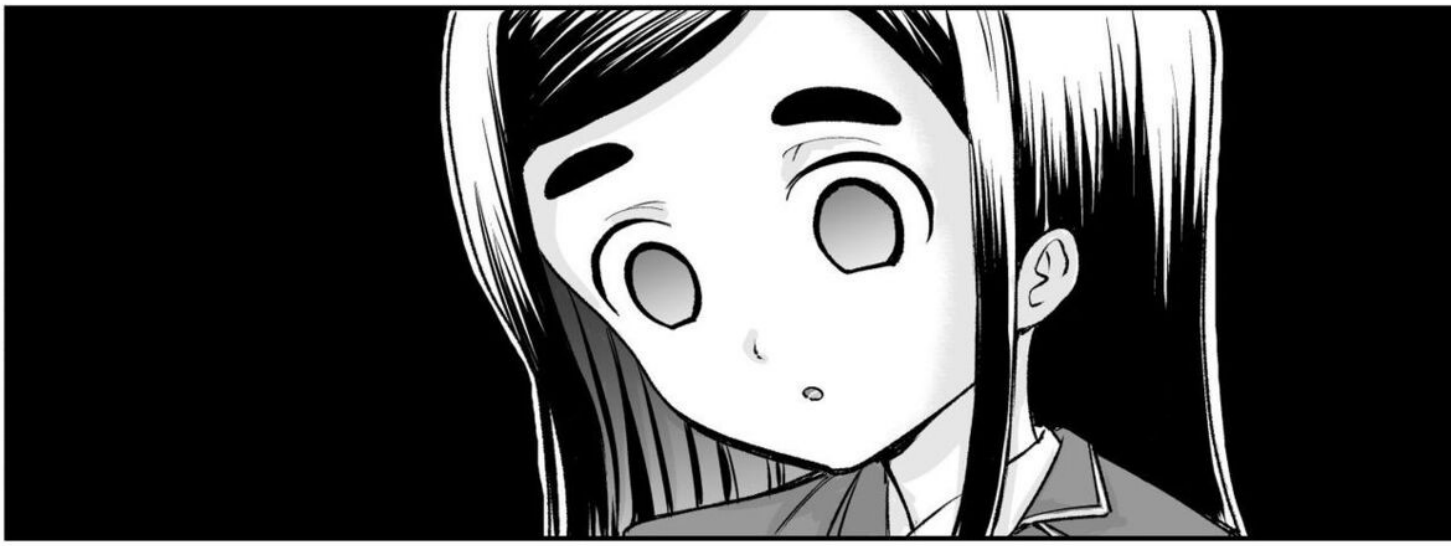



そうかな？
彼、あっちで楽しくやってるみたいだけど
向こうで彼女も出来たみたいだし


え？


ほら俺もともと本州にいたからさ友達が向こうの学校にいるんだよ
そいつから送られて来たんだ・・・コレ





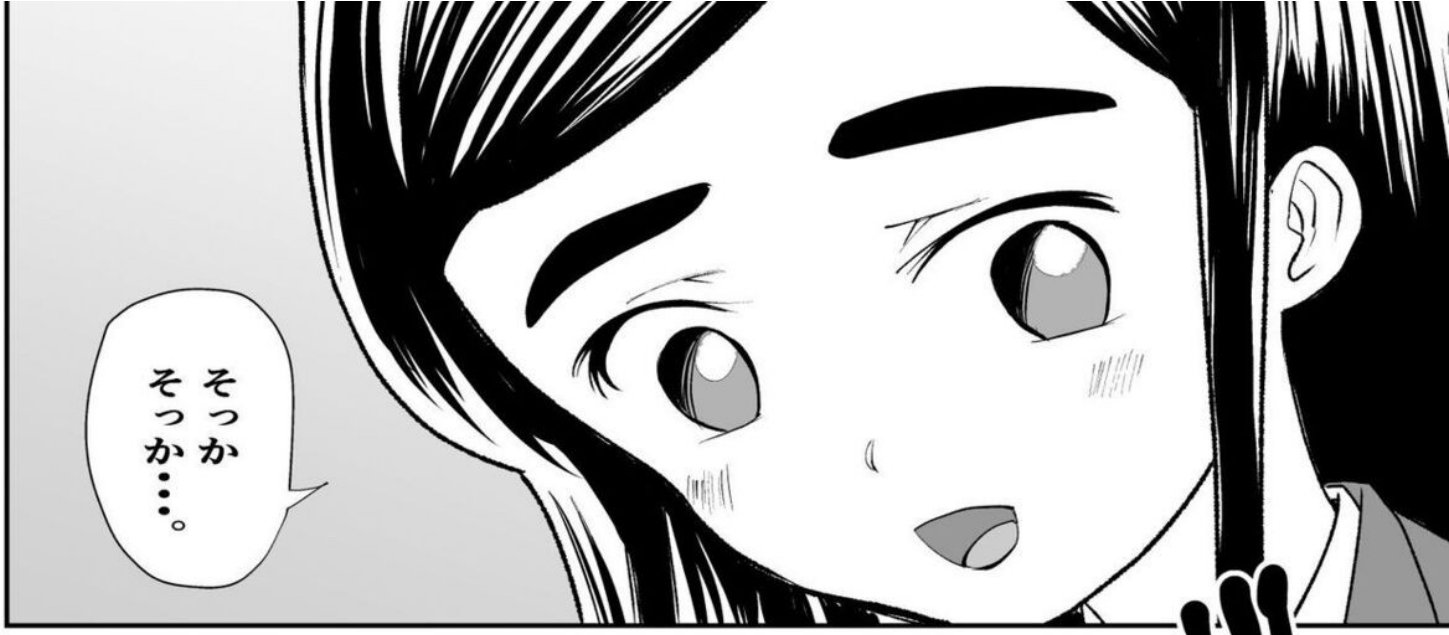

空
そんな事
一言も…


けど、確かに
様子が変だった
最近忙しいからって
返信もくれなかったし
せっかく帰って来たのに
コソコソしてて
誰にも会おうとしないし

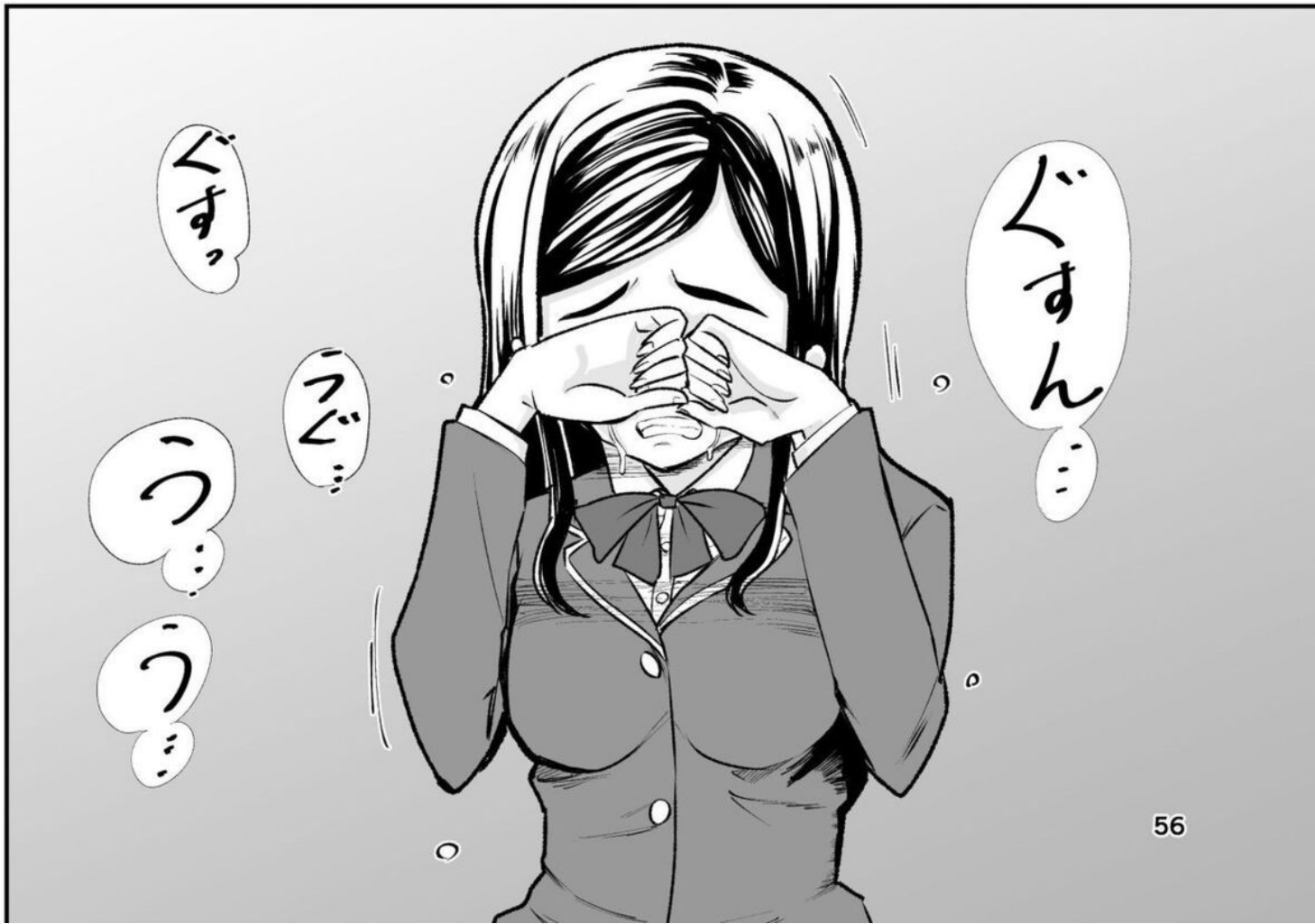

空はお別れを
言いに来たん
だよ

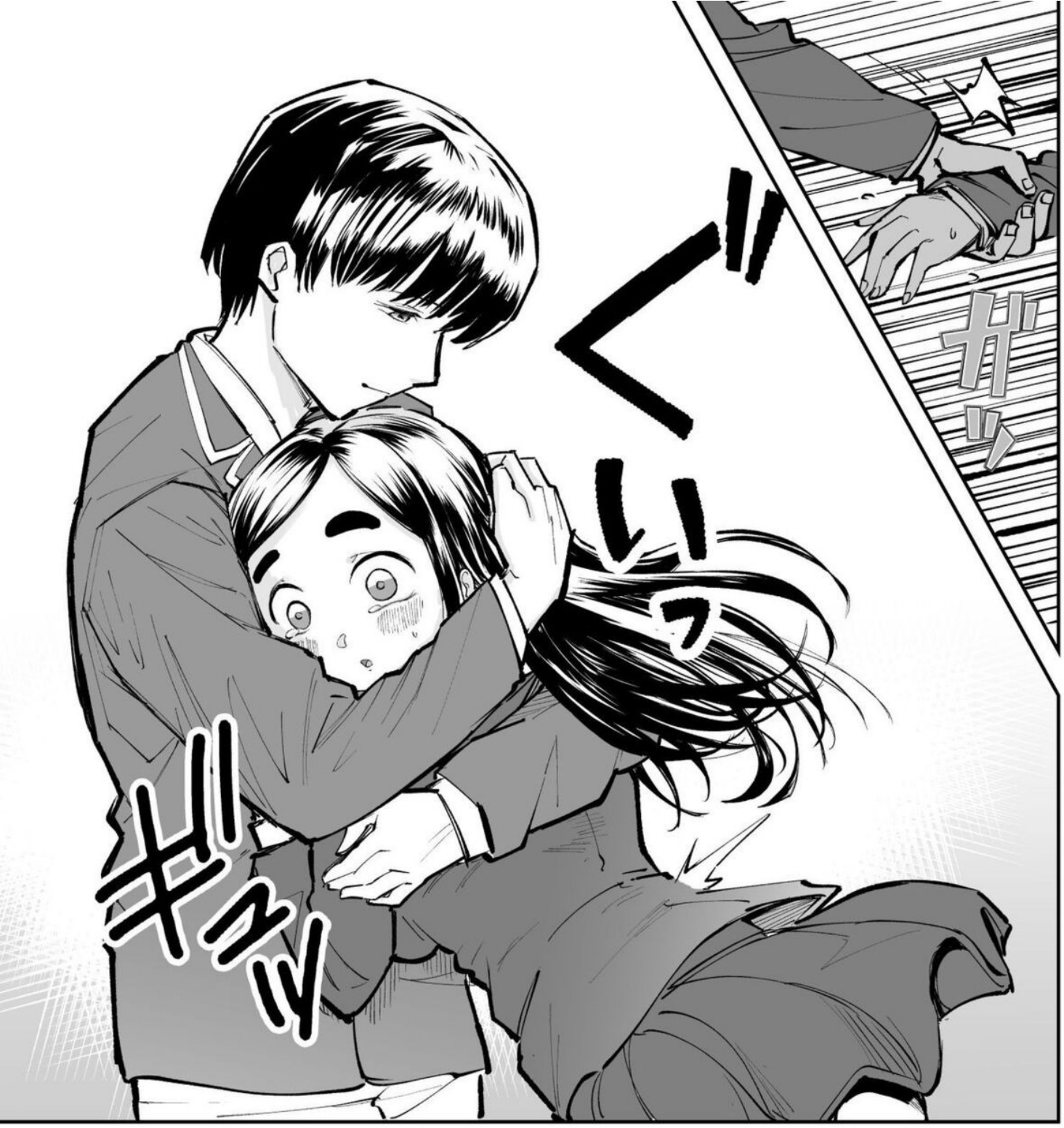

お別れ？


空は
藍ちゃんの気持ちを知っていて
自分の事を諦めて貰うために


そっか
そっか…。


うる
うる…
うわぁ…


ぐすん…
ぐすっ
うぐ…
う…
う…


ガッ
ギュッ










絶対
空いたもん


モグモグ
ぽか〜ん
どーん
茜
まだ言ってるのか？
よっぽど空に
会いたいんだな


気のせいじゃ
ないもん
空の
匂いがしたもん

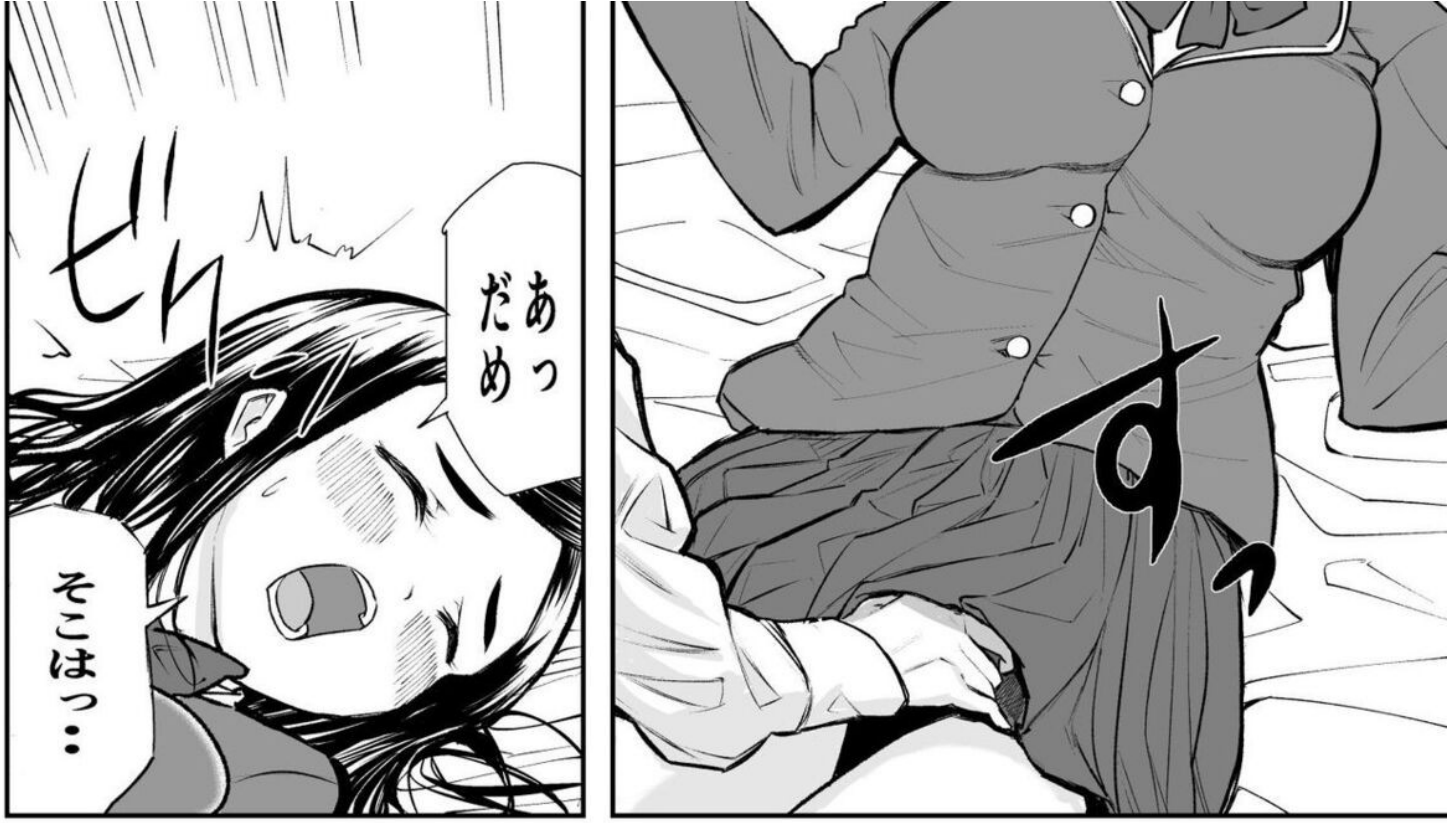

間違うはず
ないもん
この私が・

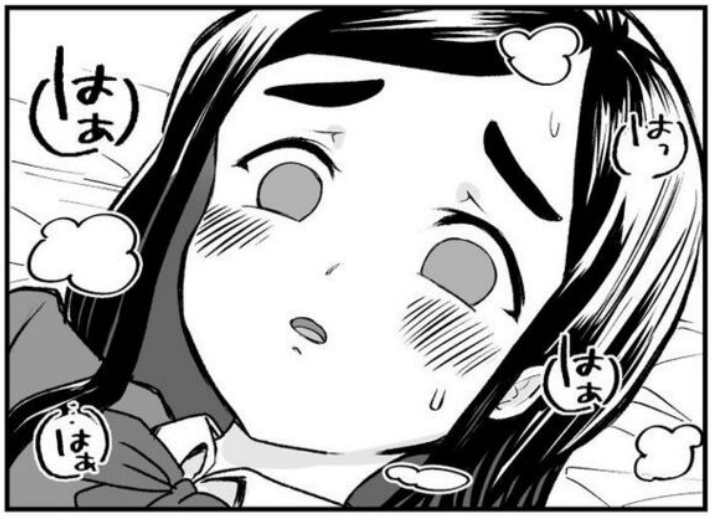

だって私は
空の事を
ずっと・・・。


待って
私、そんな
つもりじゃ・・・


ここまで来て
そういうのは
なしだよ


プニ
あ・・・
ビクッ
辛い事は
忘れよう


あっだめ
そこはっ・・

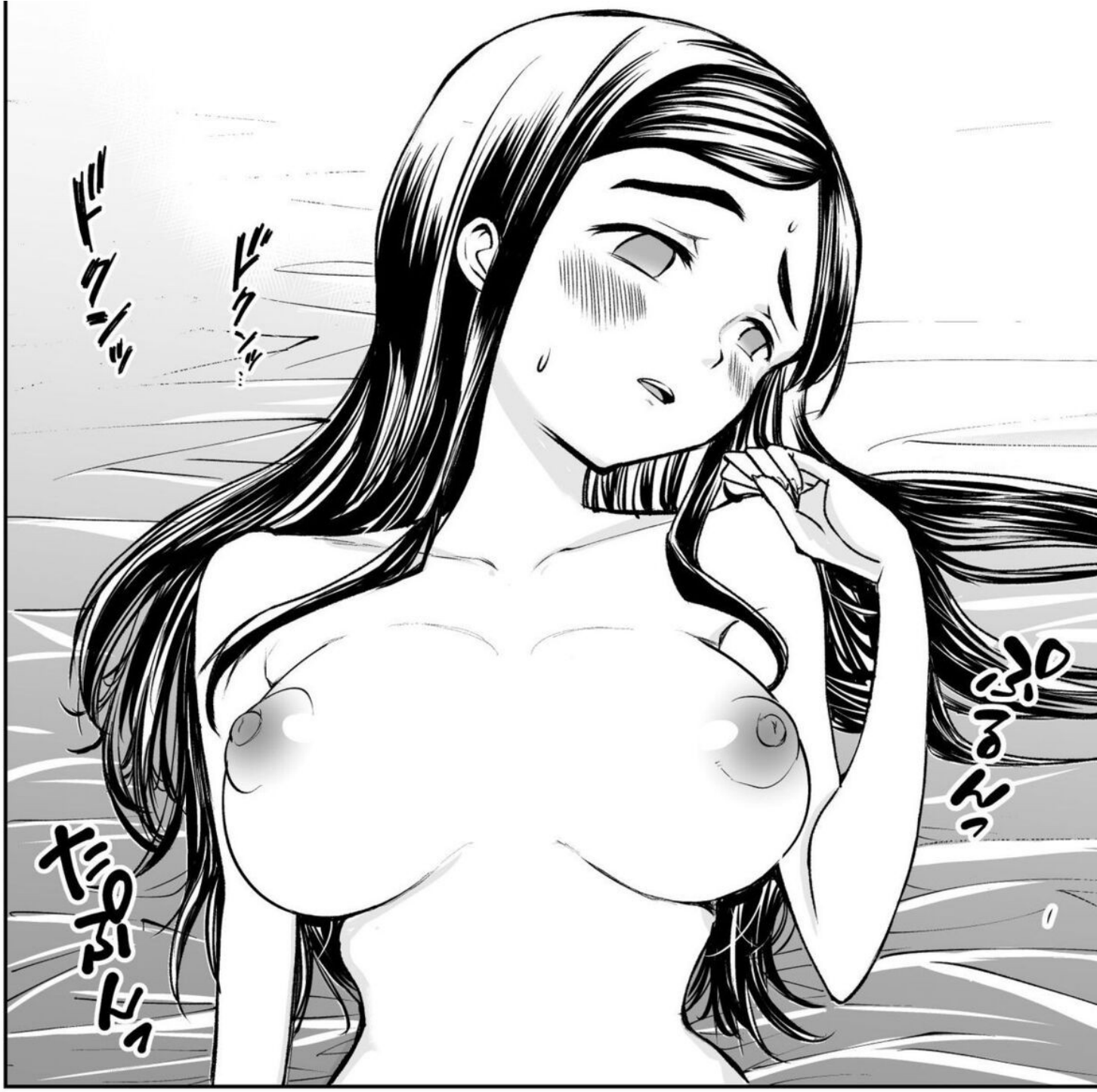

はぁ
はっ
はぁ
はぁ




パチ
パチ




ガサ
ゴソ
ガサ
ぬ
ふらん


ドクンッ
ドクンッ
ぷるんっ
たぷたぷ


もみ
はぁっ
はぁっ


ビクン…
キュッ
はあっ
ハァハァ
はあっ
はあっ
(はあっ)
(はあっ)
ハァハァ
はっ
ハァハァ
(はっ)
どくんっ♡
ドクッ


ザザーン…


そうだ
藍にお礼の
メッセージ送っておこう
ピロロ


藍
今日は藍と話せて良かった
皆んなと離れて
暮らすようになって
俺は少し心細く
なっていたのかもしれない


けど、俺の代わりになる
人間なんていない
そう言ってくれたよな
それは俺にとっても
同じだ
藍や皆んなの代わりに
なる人間なんて
誰一人だっていない
皆んな大切な仲間だ


藍のかけてくれた言葉で
改めてそう思えたんだ
ありがとう
藍


例え離れていたって
俺達はずっと繋がっているよな
ぱんっ
ぐちゅっ
ぱんっ
ぐちゅっ
ぱんっ
ぐちゅっ

chapter2へ続く…

次回予告

再び島を離れて暮らす空



そこに島での幼馴染の一人翠（あきら）が訪ねて来る



幼馴染と二晩一つ屋根の下

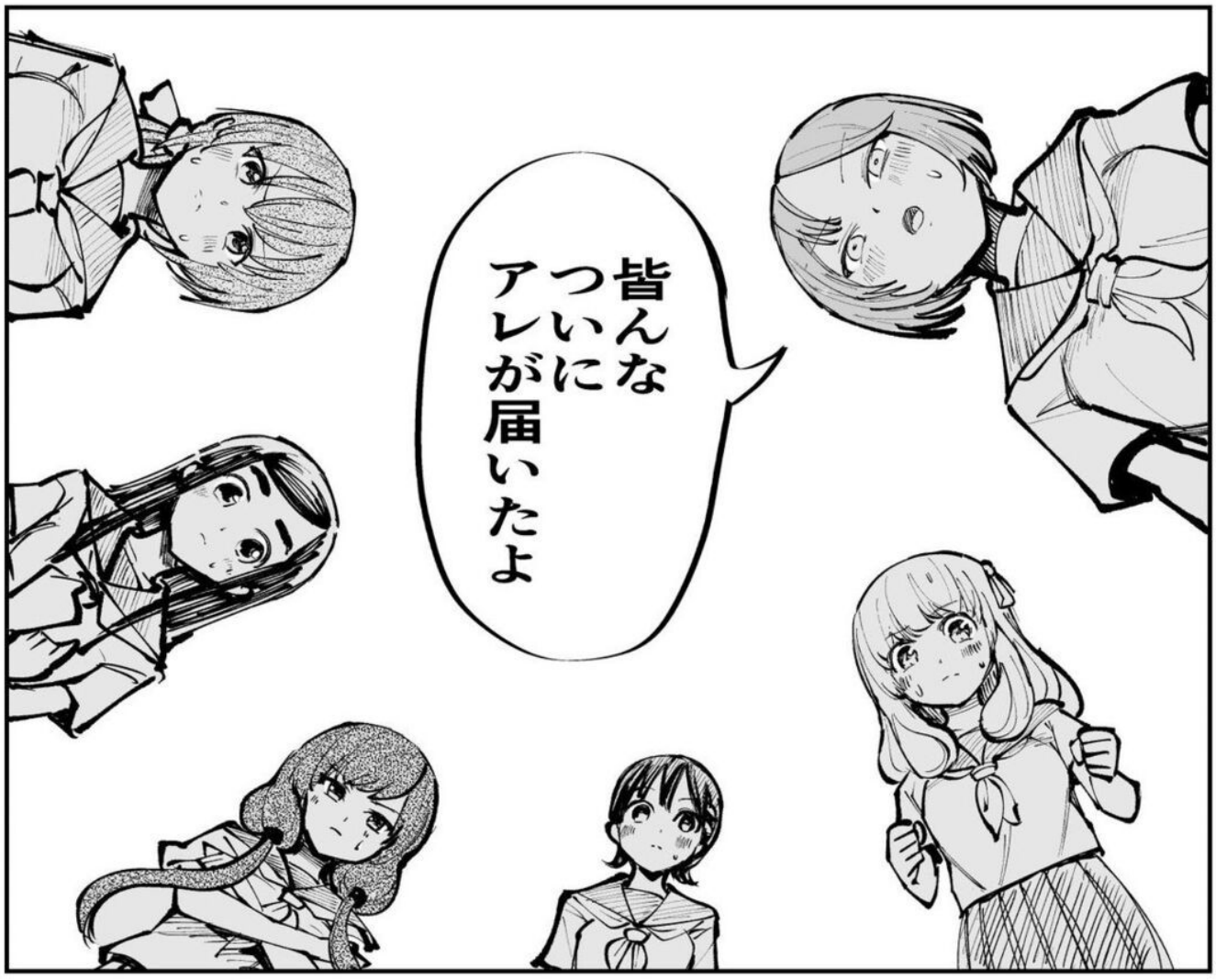
この光景は一体・・・・



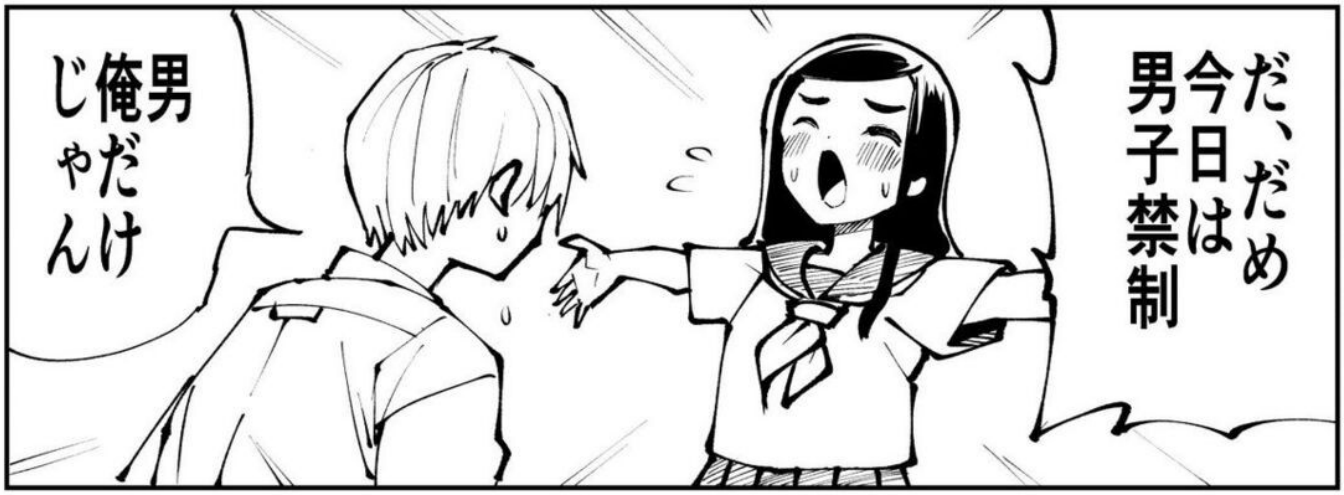
次回
肌色の青春　chapter2
2022年　冬発売予定




おまけ
まだ空が
島にいた頃・・・

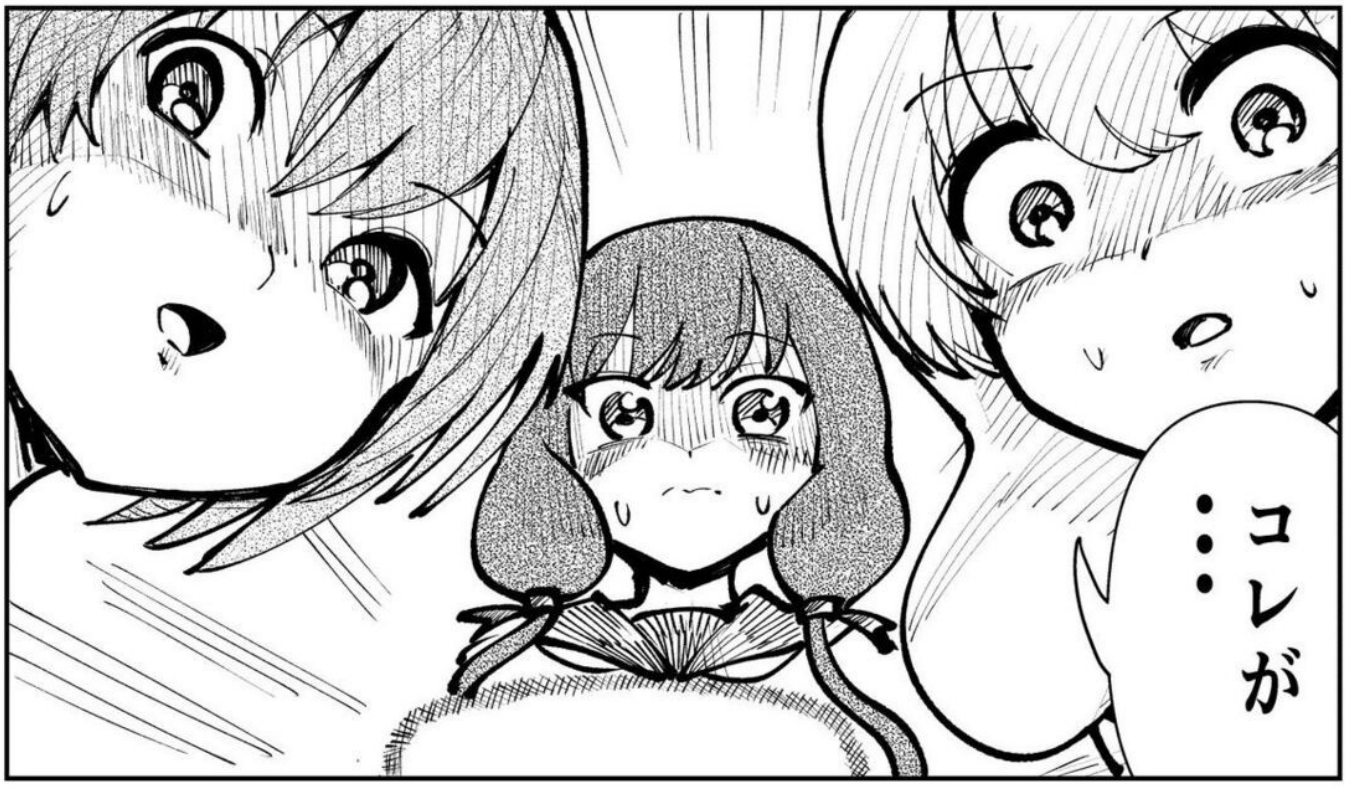

皆んな
ついに
アレが届いたよ

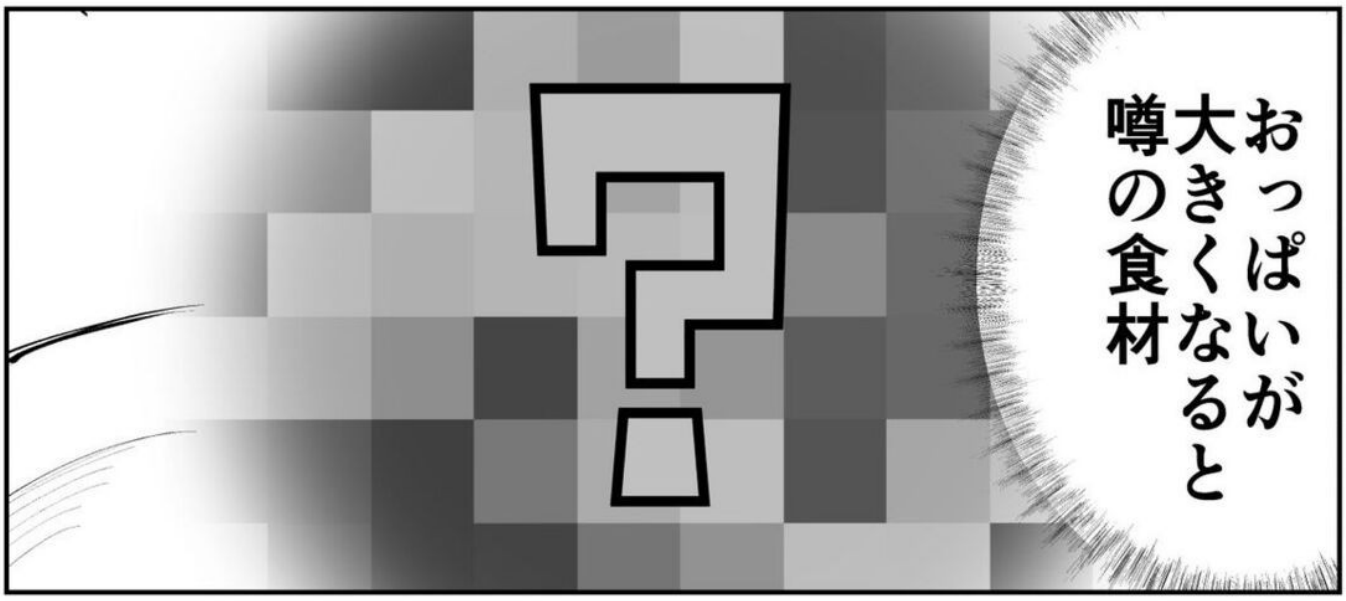

放課後
私の家に集合ね
なになに？放課後紫苑の家？

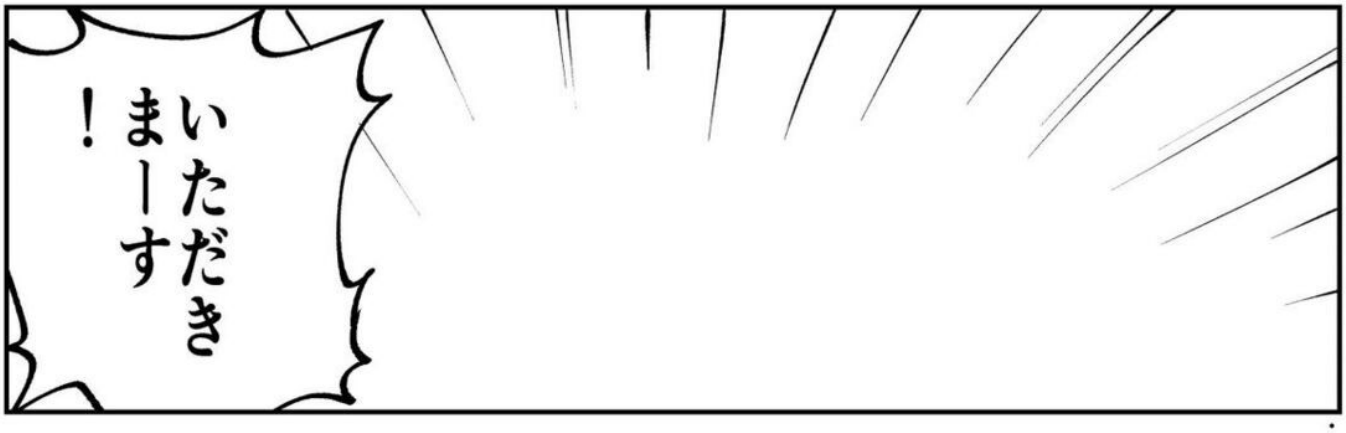

だ、だめ今日は男子禁制
男俺だけじゃん


放課後

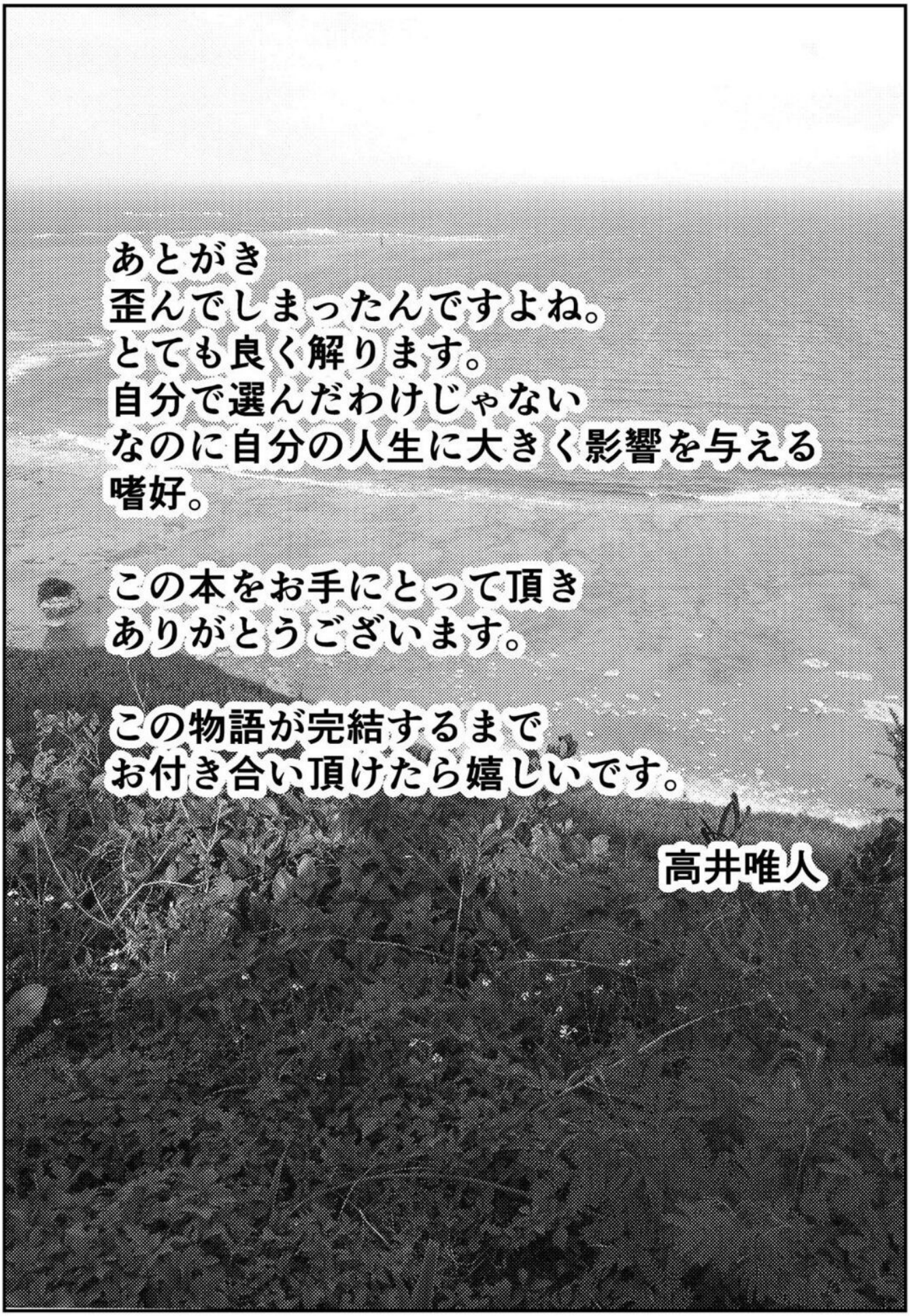

皆んなお待たせ


コレが
・・・


おっぱいが
大きくなると
噂の食材
？？


いただき
まーす
！


この食材の
効能か
真偽は不明だが
ぷるんっ♡
たぷんっ♡
プルンッ♡
ぷるんっ♡
ぷるんっ♡
タプンッ♡
6人全員の胸は
それはもう
すくすくと
育まれて
いったという
たぷんっ♡
タプンッ♡
ぷるぷるっ…♡
プルンッ♡
めでたし
めでたし


あとがき
歪んでしまったんですよね。
とても良く解ります。
自分で選んだわけじゃない
なのに自分の人生に大きく影響を与える
嗜好。
この本をお手にとって頂き
ありがとうございます。
この物語が完結するまで
お付き合い頂けたら嬉しいです。
高井唯人

この漫画について
電子書籍での星評価、レビュー

SNSやブログなどでの
拡散していただけると嬉しいです
どうかよろしくお願いいたします

高井唯人のTwitter(@takaiyuito)もフォローして
頂けたら
次話配信の予定などもチェック出来ます

この漫画は背景素材の一部に
銀杏社様:漫画街　(c)山本直樹先生の背景素材を許可を頂いて使用しております

拙作『僕はラブソングが歌えない』

作:高井唯人
(発売:双葉社)

も、
よろしく
お願いいたします







僕はラブソングが歌えない (全２巻) Kindle版

www.amazon.co.jp